

関西大学ピア・コミュニティ 2025年度活動報告書

KANSAI UNIVERSITY PEER COMMUNITY
ACTIVITY REPORT 2025

VOL. 19

関
西
大
学
ピ
ア
・
コ
ミ
ュ
ニ
テ
ィ

2
0
2
5
年
度
活
動
報
告
書



関
西
大
学

Peer＝仲間 Support＝支え合い

ピア・コミュニティでは、学生が学生を支援する
ピア・サポート活動を教職員のバックアップのもと
実践しています。
学生同士が学び合い、助け合う活動を、
自らの成長に繋げる場所がピア・コミュニティです。

ホームページ



Instagram



関西大学学生センター ボランティア活動支援グループ
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
TEL : 06-6368-1229
E-mail : peer@ml.kandai.jp

関西大学ピア・コミュニティ 2025年度活動報告書



関西大学

2025年度活動報告書の発刊にあたって

関西大学学生センター所長

石井 光

本学のピア・サポート活動は、2007年度に文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択された「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」を契機として始まり、2025年度で開設18年目を迎えました。本報告書は、その歩みを踏まえ、2025年度の活動状況を整理したものです。

関西大学には多様な背景や個性を持つ学生が在籍しており、ピア・サポート活動は、学生同士が対等な「仲間」として互いの力を認め合い、支え合う関係性を築くことを目的としてきました。複数のピア・コミュニティが連携しながら活動を展開する本学の取り組みは、学生の行動力や協調性、リーダーシップなどの育成につながってきたといえます。

一方で、正課教育科目「関西大学ピア・コミュニティ入門」の終了や活動人数の変化、社会状況の変化などを背景に、ピア・サポート活動を取り巻く環境は大きく変化しました。実際に近年の活動では、各コミュニティが自らの役割や対象を見つめ直し、主体的に企画を立案・実施する姿が多く見られる一方で、活動の継続性や新たな担い手の確保、コミュニティ間の連携といった点については、制度として整理すべき課題が浮き彫りとなっています。こうした状況は、ピア・サポート活動の価値が失われていることを意味するものではなく、むしろ次の段階へ進むための「再設計」が求められていることを示しています。

今後は、活動を活性化させる支援の充実とあわせて、役割を終えたコミュニティの整理や再編、新たなピア・コミュニティが生まれやすい仕組みづくりなど、運営基盤の見直しを進めていくことが重要です。学生の主体性を尊重しながら、持続可能で分かりやすい制度へと再構築することで、ピア・サポート活動の価値を次の世代へつないでいきたいと考えています。

「peer（仲間）」と「support（支援）」の精神のもと、学生同士が自然に支え合える文化の醸成をめざし、今後も本学の学生支援の充実に努めてまいります。本報告書が、ピア・サポート活動への理解を深める一助となれば幸いです。

今後とも、変わらずご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

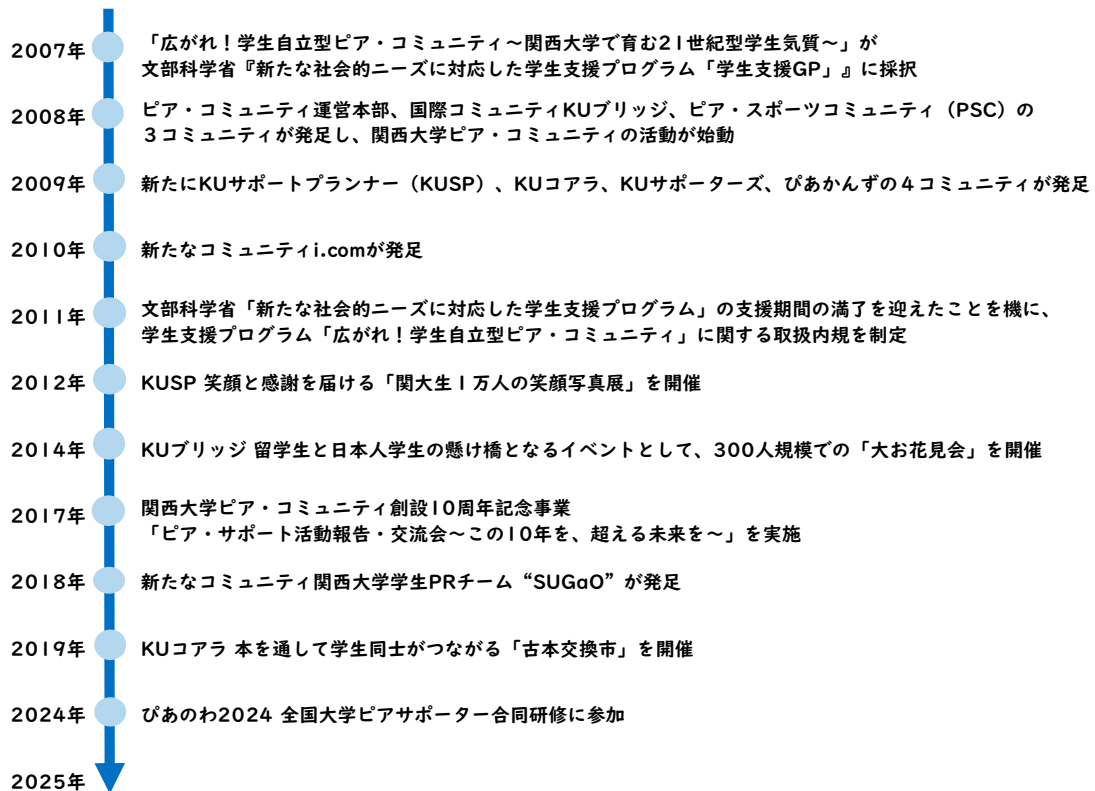
目 次

1	ピア・コミュニティの成り立ち		
1.1	ピア・コミュニティの成り立ち		1
1.2	2007年発足からのピア・コミュニティのあゆみ		2
1.3	2025年度の活動状況		3
2	ピア・サポータの育成		
2.1	ピア・サポータの育成		5
2.2	ピア・サポート研修		6
2.3	スキルアップ講座		9
3	ピア・コミュニティの活動報告		
3.1	ピア・コミュニティ運営本部		11
3.2	国際コミュニティ “KUブリッジ”		19
3.3	KUサポートプランナー（KUSP）		27
3.4	KUコアラ		33
3.5	2025年度活動していないコミュニティについて		39
4	ピア・サポータからのメッセージ		41
5	支援部署職員からのメッセージ		45

巻末 参考資料

Ⅰ ピア・コミュニティの成り立ち

1.1 ピア・コミュニティの成り立ち



関西大学のピア・サポート活動は、2007（平成19）年度に文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」（いわゆる「学生支援GP」）に採択された「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ～関西大学で育む21世紀型学生気質～」を契機として始まった。

本学では、同じ大学で学ぶ学生同士が仲間（ピア）として支え合いながら主体的に活動し、学生と教職員が協働して、より魅力的な大学づくりをめざしている。活動開始当初は、正課教育科目の開講およびピア・サポート活動の実践を柱としていたが、現在はピア・コミュニティによる実践活動を中心に展開している。

採択初年度である2007年度は、他大学における先行事例の調査や、2008年度から開講する正課授業「関西大学のピア・サポートを考える」の準備を中心に進めた。

2008年度には活動の実践組織として3つのピア・コミュニティが発足し、翌2009年度には新たに4つのコミュニティが加わった。その後、2010年度および2018年度にそれぞれ1つずつコミュニティが発足し、これまでに計9つのピア・コミュニティが設立された。

現在は、9つのコミュニティのうち4つが活動を継続している。各コミュニティでは、学生同士の支え合いを基盤としながら、ピア・コミュニティ全体の運営、正課授業では得られない学びの機会の提供や学生同士の交流・居場所づくり、留学生と日本人学生の交流支援、図書館の利用促進など、それぞれの役割や特色を生かした活動を展開している。

今後も、学生同士の相互支援を基盤とした活動を通じて、学生の主体性や協働性の醸成を図るとともに、魅力あるキャンパスづくりに取り組んでいく。

1.2 2007年発足からのピア・コミュニティのあゆみ

	ピア・ コミュニティ 運営本部	国際 コミュニティ “KU ブリッジ”	ピア・スポーツ コミュニティ (PSC)	KUサポート プランナー (KUSP)	KUコアラ	KU サポーターズ	びあかんず	i.com	関西大学学生 PRチーム “SUGoO”
2007	2007年度文部科学省『新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム「学生支援GP」』に 「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ～関西大学で育む21世紀型学生気質～」が採択される								
2008	2008年4月 発足	2008年4月 発足	2008年4月 発足						
2009				2009年4月 発足	2009年4月 発足	2009年4月 発足	2009年4月 発足		
2010								2010年4月 発足	
2011									
2012									
2013									
2014									
2015									
2016									
2017							2018年3月 ピア・サポータ 有志により 復刊号を発行		
2018									2018年4月 発足
2019									
2020									
2021									
2022									
2023									
2024			休止中			休止中	休止中	休止中	休止中 (メンバー募集停止)
2025									

… メンバー不在のため活動なし。

1.3 2025年度の活動状況

	運営本部	KUブリッジ	KUSP	KUコアラ
4月	【ピアサポチャレンジ】 新入生を迎えよう！ 新入生歓迎オリエンテーション ランチ交流会			KUコアラpresents 千里山キャンパス総合図書館 入門ツアー
5月		カードゲーム大会！ KUBridgeツアーin Umeda	みんなで楽しむ！ モルック&ドッジビー大会	
6月	Welcome to Peer 2025		ボードゲームパーティー ～ボードゲームを通じて友だちを つくろう～	KUコアラ春の古本まつり
7月				KUコアラと行く梅田の 書店巡り
8月				
9月		秋学期キャンパスツアー2025		
10月		書道体験 ～日本の伝統文化を体験しよう～		
11月	ピア・コミュニティ交流会 ピアサポ・ステップアップ会 (勉強会)	KUBridgeツアーin 嵐山		レファレンスカウンターの 体験レポート・特大ポスター 掲示
12月		KUBridge tour at the Christmas Market	自分をもっと好きになる！ パーソナルカラー&骨格診断講座 ふだんの暮らしから備える 学生防災 ～学んで備えて、つながる未来～	KUコアラ ～冬のビブリオバトル～
1月				
2月	2025年度関西大学ピア・コミュニティ活動報告会			
3月		春学期キャンパスツアー2026		

2 ピア・サポーターの育成

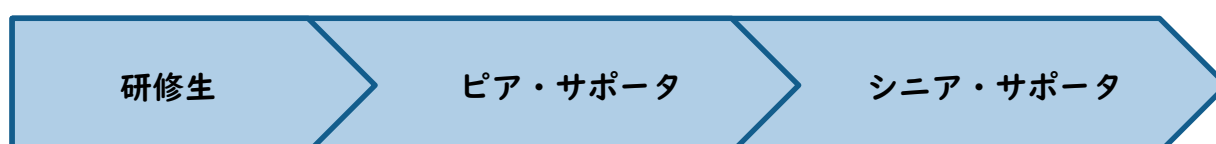
2.1 ピア・サポータの育成

2015年度に正課教育科目「関西大学ピア・コミュニティ入門」は終了したが、これまでの質を維持できるように、ピア・サポータの養成を行うための研修を実施している。

また、本学のピア・サポート活動を継続的・発展的に取り組んでいくために、学生センターやピア・コミュニティを支援する教職員（支援部署を含む）、学生支援室TAを中心とした取り組みに加え、学生自身によるピア・サポート活動の継承を促進するための仕組みとして、シニア・サポータを設けている。

ピア・コミュニティにおける学生の位置づけ、およびピア・サポータ、シニア・サポータの認定条件は次のとおりである。

【ピア・コミュニティにおける学生の位置づけ】



	研修生	ピア・サポータ	シニア・サポータ
基礎資格	学部生／大学院生	学部生／大学院生	学部生／大学院生
保有するスキル・知識等	ピア・サポータの認定条件を満たしておらず、単独でピア・サポート活動を行うことはできない者。	ピア・サポータの認定条件を満たし、ピア・サポート活動を行うために必要なスキル・知識等を持つ者。	シニア・サポータの認定条件を満たし、ピア・サポート活動に関するアドバンストなスキル・知識等を持つ者。
活動の範囲	所属するコミュニティでのピア・サポート活動。	所属するコミュニティ及びピア・コミュニティ全体としてのピア・サポート活動。	所属するコミュニティ及びピア・コミュニティ全体としてのピア・サポート活動。 学生によるピア・コミュニティの継承に関すること。

<ピア・サポータ認定条件>

- ・「関西大学ピア・サポート研修」受講修了をもって認定する。

<シニア・サポータ認定条件>

- ・コミュニティ代表者及び運営委員を経験したピア・サポータが、ピア・コミュニティでの1年以上の活動と3講座以上のスキルアップ講座の受講修了をもって認定する。

※運営委員…ピア・サポート研修及び活動報告会等、ピア・コミュニティ全体に関わる行事において、企画や運営に携わる者。

2.2 ピア・サポート研修

1 実施目的

ピア・サポータとしての自覚を促すとともに、ピア・サポート活動をするために必要な知識・スキル等を身につけてもらうことを目的とする。

2 対 象

ピア・コミュニティ研修生

3 実施日時・実施場所・受講者数

	内容	日時	実施方法・会場	参加者数
①	ピア・サポートって何だろう？	9月24日（水） 12時20分～12時50分	凜風館1階 ピアエリア/ PCR	2名
		9月25日（木） 12時20分～12時50分		0名 参加者0名のため中止
		9月29日（月） 12時20分～12時50分		5名
②	自己理解	9月25日（木） 14時40分～16時10分		4名
		9月29日（月） 16時20分～17時50分		2名
		10月3日（金） 13時00分～14時30分		1名
		10月15日（水） 16時20分～17時50分		2名
③	コミュニケーション	10月6日（月） 16時20分～17時50分		1名
		10月9日（木） 14時40分～16時10分		6名
④	プランニング	10月16日（木） 14時40分～16時10分		4名
		10月17日（金） 13時00分～14時30分		0名 参加者0名のため中止
		10月27日（月） 16時20分～17時50分		1名

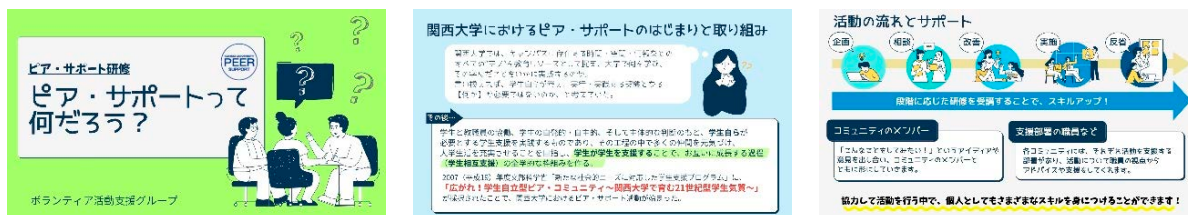
※①～④すべてを受講することにより、「関西大学ピア・サポート研修」受講修了となる。

4 概 要

【①ピア・サポートって何だろう？】

ピア・サポート活動を実践するうえで必要となる基礎知識（ピア・サポートの概要や歴史、本学における導入の経緯、活動の目的・理念、研修制度等）を正しく理解し、今後の活動に活かすことを目的として実施した。

また、研修後にはレポートの提出を課し、研修で学んだ内容を自身の言葉で整理・振り返る機会を設けた。知識をインプットするだけでなく、アウトプットを通して理解を深めることで、学びを定着させ、今後のピア・サポート活動に活用できるようにした。



【②自己理解】

ピア・サポート活動を実践していくために、まずは自己について理解し、自分と相手の特徴や違いを認識することで、それぞれの強みの活かし方やフォローの方法を考えるきっかけとすることを目的に実施した。また、チームはさまざまな個性が集まることで大きな力を発揮できることを理解し、自分と相手の個性を前向きに捉える姿勢を育むこともねらいとした。

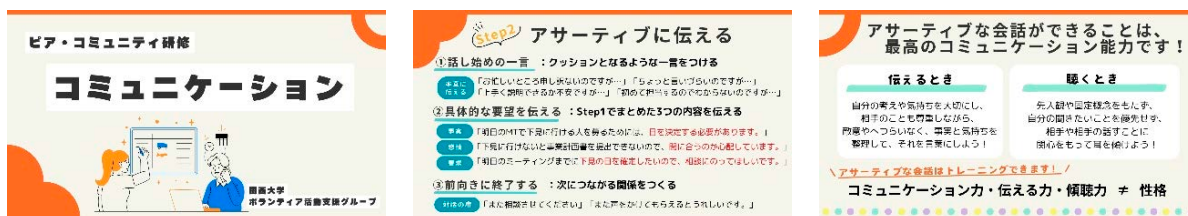
当日は、自己紹介を通して参加者同士の交流を深めた後、SPランプを用いた個人・グループワークを実施し、自身のサブパーソナリティを探った。その後、結果をグループ内で共有し、それぞれの違いや共通点について意見交換を行った。さらに、サブパーソナリティを「受動的・内向的・能動的・外交的」の4つのタイプに分類し、それぞれの特徴や強み、周囲との関わり方について理解を深めた。自身の特性への理解を深めるとともに、互いの違いを認め合い、それぞれの強みを活かして協力することの大切さを学ぶ機会となった。



【③コミュニケーション】

ピア・サポート活動を実践していく上で必要なコミュニケーション力を身につけることを目的として実施した。一人ひとりが自分らしさを大切にしながら互いを尊重し、自分の考えや意見を適切に伝えるためのコミュニケーションについて理解を深めるとともに、そのためのアプローチ方法や、アサーティブなコミュニケーションの活用場面、聴き方・話し方の具体的な方法を学ぶことをねらいとした。

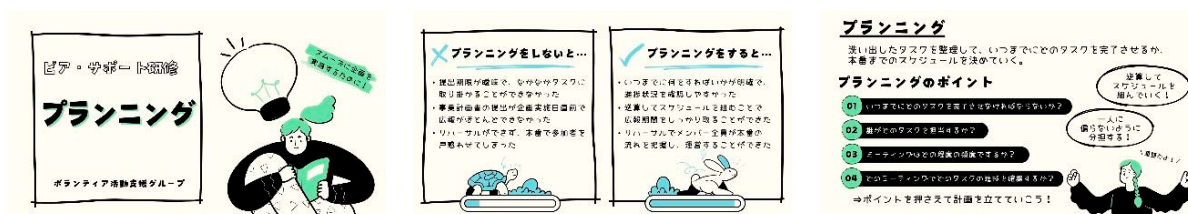
当日は、アサーティブなコミュニケーションや傾聴について解説を行った後、ペアワークやグループワークを通して、相手を尊重しながら自分の考えを伝える話し方や、相手の話に耳を傾ける聴き方を実践的に体験した。講義と実践を繰り返すことで、アサーティブな「話す・聴く」を意識したコミュニケーションの重要性を理解するとともに、ピア・サポート活動に必要な姿勢や人との関わり方への理解を深める機会となった。



【④プランニング】

ピア・サポート活動を円滑かつ効果的に実践するために必要なプランニングの手法を身につけ、コミュニティメンバー全員が共通認識を持ちながら計画的に企画を進められるようになることを目的として実施した。

当日は、プランニングの基本的な考え方や提出書類の作成・提出方法について解説を行った。その後、実際のピア・サポート活動を想定した個人ワークを実施し、企画実施までのスケジュールや必要なタスクの洗い出し、役割分担などについて検討した。活動の流れを具体的にイメージしながら企画立案に取り組むことで、計画的に活動を進めるための実践的なプランニング手法を学ぶ機会となり、今後、チームでより良いピア・サポート活動を企画・運営していくための基礎的な知識の習得につながった。



5 所 感

今年度のピア・サポート研修では、全4講座を通して、日々のピア・サポート活動で想定される対人関係やさまざまな場面を題材としたワークを取り入れながら実施した。その結果、参加学生は活動を実践するうえで必要となる知識やスキルを実践的に習得し、今後のピア・サポート活動に活かすための基盤を築くことができた。

また、ピア・サポート活動は単なる課外活動ではなく、学校教育活動の一環として教職員と学生が協働しながら実践する教育活動である。そのため、活動の目的や理念を正しく理解したうえで、必要な知識やスキルを教職員とともに学び続けることが重要であることを学生へ伝え、研修の目的や必要性について理解を深める機会とした。今後も、知識と実践を結び付けた研修を継続し、学生が安心して主体的に活動できる体制づくりに取り組んでいきたい。

2.3 スキルアップ講座

1 実施目的

ピア・サポート活動に関するアドバンストなスキル・知識等を身につけ、より多角的で質の高いピア・サポート活動を行えるようにするとともに、ピア・サポーターとしての意識を高め、ピア・コミュニティの継承を行う人材を育成することを目的とする。

2 対 象

ピア・サポーター、研修生、本学学生

3 講座名・実施日時・講師・受講者数

	講座名	実施日時	講師	受講者数
①	ほめる達人講座	6月25日(水) 7月2日(水) 7月9日(水) 16時20分～17時50分	日本ほめる達人協会 理事長 西村 貴好 氏	ピア・サポーター1名 研修生1名 一般学生55名
②	コミュニケーションチャレンジ ～自分らしさを活かそう～	11月19日(水) 11月26日(水) 16時20分～17時50分	フリーアナウンサー 青木 佳子 氏	ピア・サポーター7名 研修生1名 一般学生12名

4 概要・受講者の声

【①ほめる達人講座】

全3回にわたり、学生生活を充実させるために必要なコミュニケーション力の向上を目的として実施した。「ほめる」とは「価値を発見して伝えること」という考え方をもとに、お世辞ではなく相手の良さや可能性を見出し、それを伝える技術について学んだ。

また、自分と他者の違いを価値として捉える視点や、チームの力を引き出す「チャンクの活用」、言葉だけでなく態度や表情で相手を認める「ほめ仕草」についても、ワークを交えて実践的に学んだ。相手を尊重し、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションについて理解を深める機会となった。

<受講者の声>

- ・こんなにも、飽きない楽しい充実した90分があるのかと思うくらい満足度の高い講義だったと感じています。(政策・1年次生)
- ・人をほめる前にまずは自分と向き合い、いろいろと改善していかないといけないなと思いました。また、今日学んだことをこれからの大学生活に活かしていきたいです。(システム理工・1年次生)
- ・共感力のところは、私も相談する/される側両方の経験があって、気分が沈みに沈みきった時には感情を理解してくれることに一番救われていました。先生の説明を聞いて、自分の経験も重なるところが多くあり、大変納得できました。(文・4年次生)



【②コミュニケーションチャレンジ ～自分らしさを活かそう～】

本講座は、自身のキャラクターを活かした伝え方・聴き方を理論と体験の両面から学ぶことで、対人関係やリーダーシップの向上につながる気づきを得て、今後の円滑なコミュニケーションの実践に活かすことを目的として実施した。

第1回では「話し方と基礎トレーニング」をテーマとして、自己理解を深めながら、自分らしい表現や伝える力を磨くための発声・姿勢・表情などの基礎トレーニングを行った。

第2回では「聴き方と在り方」をテーマとし、タイプ別コミュニケーション（DiSC）を通して自分の特徴と相手との違いを認識したうえで、相手に寄り添う聴き方や自分の在り方を見つめ直すワークを行うことで、相互理解と信頼関係を築くための実践的な力を養った。

<受講者の声>

- ・実践が多く、楽しかったです。実際に思っているよりも大げさに感情を表現した方がよいということを改めて学びました。（商・1年次生）
- ・とても楽しく、話しやすい雰囲気を講師に作っていただけたので、取り組みやすかったです。ここまで講座で学んだことをその場でアウトプットすることは今までなかったので、新鮮でした。（文・1年次生）
- ・話し方は、人とコミュニケーションをとる上でとても重要なものだと感じました。将来的に、プレゼンや人と話をする機会はたくさんあると思うので、今回の講座を通して学んだ「言葉の抑揚」を活かしたいと思います。（社安・2年次生）



3 ピア・コミュニティの活動報告

3.1 ピア・コミュニティ運営本部

■ ピア・コミュニティの趣旨

ピア・コミュニティ運営本部（以下、「運営本部」という。）は、ピア・コミュニティ間の連携や情報共有を促す役目を担っている。そのため、ピア・サポータの合宿や勉強会、活動報告会などの企画・運営を行い、各コミュニティの活動支援とピア・コミュニティ間の交流を促進している。

■ 所属人数

8名 ＊1年次生0名、2年次生6名、3年次生1名、4年次生0名、大学院生1名
(2026年3月末現在)

■ ミーティングの概要

週1～2回（曜日は不定期。随時、調整。）

■ ピア・コミュニティ内の連携

昨年度、活動を牽引してくれた4年次生が卒業し、3年次生も留学により不在となったため、2年次生が中心となって活動した。履修状況から全員が揃う定例ミーティングの設定が難しく、やむを得ずLINEやTeamsといった対面以外の方法での相談や情報共有が増えてしまったこと、全員が集まって一緒に準備を行う時間が設定できないことから、分担してそれぞれに進めていくといった方法をとったことにより、コミュニケーションの不足が生じやすい環境となってしまった。この1年の連携不足についての反省点から、信頼関係や協力体制の構築には、雑談が生まれるような対面でのコミュニケーションが大切であることを実感したため、2026年度は対面でのコミュニケーションを意識的に増やしたい。

■ ピア・コミュニティ間の連携

運営本部はその活動の趣旨から、必然的に他のピア・コミュニティを支援する連携体制を取っている。また、ピア・コミュニティ交流会や活動報告会などを通じて、全てのピア・コミュニティに所属するメンバーの交流を促進させ、コミュニティ間の連携を深めることができるように活動している。また、2025年度はピア・コミュニティの活動拠点であるPCR（Peer Community Room）に各コミュニティの募集ポスターを掲示するなど、ピア・コミュニティ間でお互いの活動について知る機会を創出した。

■ 教職員との連携について

2025年度は活動できるメンバーが少なかったこともあり、支援部署であるボランティア活動支援グループの職員から、要所で助言とサポートをしてもらいながら活動を進めてきた。今後も適宜職員と意見交換をしながら、学生主体のより質の高いピア・サポート活動をめざしていきたい。

■ 課題

新入生歓迎オリエンテーションへの参加等により新メンバーの募集を行い、多くの個別ガイダンスにも対応したが、見込んだ人数の新メンバーを獲得するには至らなかった。

コミュニティの文化やノウハウの継承には、メンバーの確保と活発なコミュニケーションが不可欠である。2026年度はできる限り対面で一緒に相談・準備をする時間を大切にし、運営本部内でのコミュニケーションをより活発に行うことで、活動の継続性を確保しつつ、運営本部内の協力体制を構築したい。

pick up 事業

ランチ交流会



新入生歓迎オリエンテーションでピア・コミュニティに興味をもった新入生や、今年から活動に参加したいと思っている学生に対して、ピア・コミュニティのメンバーと交流することで、ピア・コミュニティに関する情報を得られる機会をつくることを目的として実施した。

凧風館1階ピアエリアにて、ピア・コミュニティに所属しているメンバーと、ピア・コミュニティに興味をもっている参加者が各自持ち寄った昼食を食べながら交流し、その中でピア・コミュニティの雰囲気や活動を知ってもらうことができた。



参加者の声

・他大学から編入してきて、知り合いがいなかったのが参加しました。優しく受け入れてもらったのが嬉しかったです。（文・3年次生）

・ピア・コミュニティの方たちが、優しく迎えてくれたので、充実した時間を過ごせました。（社・2年次生）



新しく加入したメンバーがピア・コミュニティへの理解を深めるとともに、今後のピア・サポート活動を円滑に進められるよう、同期や先輩との親睦を深め、コミュニティを越えた学生同士のつながりを築くことを目的として実施した。

当日は、学生が企画したアイスブレイクをはじめ、心理テストやフリートークなど、交流を中心としたプログラムを実施した。新しく加入したメンバーだけでなく、既存メンバーにとってもコミュニティ内での親睦をさらに深めるとともに、他コミュニティのメンバーとの新たなつながりを築く機会となり、今後のピア・サポート活動を協働して進めていくための横のつながりづくりにつながった。



参加者の声

・普段関わりが少ない他のコミュニティのメンバーと交流することができて楽しかった。(KUSP・1年次生)

・話題カードがあったので、話題に困ることなく、趣味や好きな動物などの話で盛り上がる事ができた。
(KUブリッジ・2年次生)

① 新入生を迎えよう！（新入生誘導及び写真撮影）

入学式で新しく関西大学の仲間（peer）になった新入生及びその保護者に対して、学内誘導や写真撮影等の補助を行うことで、大学生生活のスタートを応援することを目的として実施した。

当日は、5グループに分かれて、各地点で入学式会場や学部行事会場など学内の案内を行ったほか、写真撮影の補助も行った。

また、「ピア・サポチャレンジ」として一般学生を運営側として募集を行い、ピア・サポート活動を一緒に行ったことで、ピア・サポートを知ってもらう機会になった。



日 時 4月1日（火）9時00分～16時30分

場 所 千里山キャンパス

参加者数 29名（ピア・サポータ8名、研修生5名、一般学生16名）

参加者の声

- ・たくさんの写真補助ができて非常に楽しかった。入学式の思い出づくりの一助となれたことも非常に嬉しかった。（情・3年次生）
- ・ピア・サポート活動は、学部・年齢問わず学生と楽しく関わりながら活動できるので良かった。（商・2年次生）

② 新入生歓迎オリエンテーション

新入生にピア・サポート活動について周知し、ピア・コミュニティの活動に興味をもってもらい、新メンバー募集の促進を目的として実施した。

当日は、ブースに訪れた関大生にピア・コミュニティの取り組みについて説明を行い、ピア・コミュニティの活動について知ってもらう機会とした。



日 時 4月2日（水）～4月4日（金）11時00分～16時00分

場 所 千里山キャンパス

参加者数 18名（ピア・サポータ13名、研修生5名）

参加者の声

- ・声を掛けてビラを受け取ってもらったときや、ブースでの説明を聞いてくれたときは嬉しく、もっとたくさんの学生にピア・コミュニティの活動を知ってもらいたいと感じた。（ピア・コミュニティ所属学生）
- ・他のサークルや部活に所属する学生が頑張っている姿を間近で見ながら活動できたことで、自分たちも頑張ろう！とモチベーションが向上した。（ピア・コミュニティ所属学生）

③ ランチ交流会

新入生歓迎オリエンテーションでピア・コミュニティに興味を持った新入生や、今年から活動に参加したいと思っている学生に対して、ピア・コミュニティのメンバーと交流することで、ピア・コミュニティに関する情報を得られる機会をつくることを目的として実施した。

凜風館1階のピアエリアにて、ピア・コミュニティに所属しているメンバーと、ピア・コミュニティに興味をもっている参加者が昼食を食べながら交流し、ピア・コミュニティの雰囲気や活動を知ってもらうことができた。



日 時 4月8日(火)、10日(木) 12時10分～13時00分

場 所 千里山キャンパス凜風館1階ピアエリア

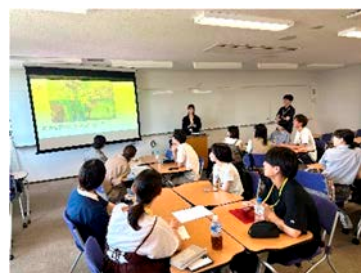
参加者数 16名(ピア・サポータ10名、研修生4名、一般学生6名)

参加者の声 ・他大学から編入してきて、知り合いがいなかったので参加した。優しく受け入れてもらったのが嬉しかった。(文・3年次生)

④ Welcome to peer 2025

新しく加入してくれたメンバーのピア・コミュニティについての理解を深めること、また、ピア・コミュニティに所属している学生同士の親睦を深め、コミュニケーションの円滑化を図ることを目的として実施した。

当日は、学生自身で考えたアイスブレイクをはじめ、心理テストやフリートークなど交流をメインに行った。新しく加入したメンバーだけでなく、既存のメンバーにとっても自身が所属しているコミュニティのメンバーだけでなく、他のコミュニティメンバーとの交流を深める機会となった。



日 時 6月28日(土) 14時40分～17時00分

場 所 千里山キャンパス第1学舎5号館2階E201教室

参加者数 16名(ピア・サポータ10名、研修生6名)

参加者の声 ・普段関わりが少なかった他のコミュニティのメンバーと交流することができて楽しかった。(KUSP・1年次生)
・話題カードがあったので、話題に困ることなく、趣味や好きな動物などの話で盛り上がる事ができた。(KUブリッジ・2年次生)

⑤ ピア・コミュニティ交流会

コミュニティ間の交流を図り、親交を深めること。また、コミュニティの垣根を越えて交流する時間も設け、各コミュニティやメンバー間の相互理解を深めることで、今後の円滑なピア・サポート活動に繋げることを目的として実施した。

当日は、参加者が集まりやすいお昼休みの時間を有効的に活用し、2グループに分かれてUNOを行った。



日 時 11月14日（金）12時20分～12時50分

場 所 千里山キャンパス凜風館1階ピアエリア

参加者数 9名（ピア・サポータ4名、研修生5名）

参加者の声

- ・普段なかなか関わる機会が少ない、他のコミュニティに所属しているメンバーとも楽しく交流することができて良かった。（運営本部・2年次生）
- ・和気あいあいと楽しく活動することができた。今後も頻繁に開催してもらえると嬉しい。（KUブリッジ・2年次生）

⑥ ピアサポ・ステップアップ会（勉強会）

ピア・コミュニティに所属している学生が、他のコミュニティについて知る機会を作ること。また、コミュニティの垣根を越えて交流する時間を設けることで、メンバー間の相互理解を深め、今後の円滑なピア・サポート活動に繋げる。さらに、ピア・コミュニティで活動した経験を就活や社会にでた際にどう活かせるのかを学ぶことで、モチベーションの向上を図ることを目的として実施した。

当日は、「ガクチカを語れる学生になる！～ピア・サポート活動を自分のストーリーにしよう～」をテーマに、講座を開講した。



日 時 11月29日（土）13時00分～16時00分

場 所 千里山キャンパス凜風館1階ピアエリア

参加者数 9名（ピア・サポータ7名、研修生1名、本学教職員1名）

参加者の声

- ・改めてピア・コミュニティでの活動と就活の結びつけ方を学ぶことができ、自身のことを振り返る場としても有意義だった。（運営本部・大学院生）
- ・自分についてのシートを書く際に、すぐには埋まらなかったため現在の自分の経験不足を痛感したが、今後何をすべきか明確にすることができた。（KUコアラ/KUSP・2年次生）

⑦ 2025年度関西大学ピア・コミュニティ活動報告会

2025年度の活動を振り返り、成果や課題を共有することで今後の活動に生かすこと、また、他コミュニティの活動状況を把握し、ピア・サポータおよび研修生同士の交流を深めること、さらに、他大学との交流や活動報告を通して新たな気づきや学びを得ることで、ピア・サポート活動の在り方を改めて見直し、大学の枠を超えたつながりを形成することを目的として実施した。

当日は、本学ピア・コミュニティによる各コミュニティの活動報告を行った後、大阪経済大学（DOGs）による活動報告を実施した。その後、「ピア・サポート活動に対する学内外の認知度を向上させるために、SNSを味方につけるには」をテーマにグループワークを行い、参加者同士で意見交換を行うなど交流を深めた。昼休みには食堂でランチ懇親会を実施し、午後にはキャンパスツアーを通して本学の施設や学生生活を紹介するなど、大学間の交流を図った。



日 時 2026年2月27日（金）9時15分～16時30分

場 所 千里山キャンパス第2学舎4号館BIGホール100

参加者数 44名（ピア・サポータ14名、研修生5名、本学教職員14名、大阪経済大学（DOGs）学生10名、大阪経済大学教職員1名）

参加者の声

- ・普段、インスタの使い方を真面目に考えることがなかったのでもいい機会になった。他大学ならではの視点もあり面白かった。（KUSP・2年次生）
- ・大阪経済大学では、関大のコミュニティとは違った雰囲気の活動やインスタの投稿をしており、今後の投稿の参考になる知識を得られた。（KUブリッジ・2年次生）
- ・活動内容を相互に共有することでいい刺激や気づきを得られた。お互い規模も目的も違う団体だが、抱える悩みが同じであると気づけた。（大阪経済大学・1年次生）
- ・他大学のピア・サポート活動について興味があり自身の大学とは違った活動に面白さがあった。（大阪経済大学・1年次生）

3.2 国際コミュニティ “KUブリッジ”

■ ピア・コミュニティの趣旨

国際コミュニティ “KUブリッジ”（以下、「KUブリッジ」という。）は、留学生の学生生活の充実を図るため、主に国際交流イベントの実施を通して、留学生と日本人学生との交流を促進している。また、国際部と連携した活動も行っている。

■ 所属人数

39名 ＊1年次生 8名、2年次生 13名、3年次生 5名、4年次生 13名
(2026年3月末現在)

■ ミーティングの概要

KUブリッジミーティング 月1回、国際部ミーティング 月1回

■ ピア・コミュニティ内の連携について

コミュニティ内では、主にSNS（LINE）とGoogleドライブを活用して情報共有や呼びかけを行っている。2025年度は秋学期に加入してくれた新メンバーが多くいたことから、秋学期に開催したイベントには積極的に新メンバーに声をかけ、参加を促した。学外で行う企画は一緒にいる時間が長くなるため、普段ミーティングなどではあまり話せていなかったメンバー同士にとっても交流の機会となり、関係が深まった。また、運営本部が企画した勉強会に参加できなかったメンバーを集めて、KUブリッジ内で同内容の勉強会を開催して学びを深めた。今後も交流を深めながら、それぞれのモチベーションの向上に繋がるような機会を増やしていきたい。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

主に連携する機会は代表者会議である。運営本部が企画する勉強会や交流会、活動報告会を通して他のコミュニティのメンバーと関わる機会はあるが、交流が主体的に参加する一部のメンバーに限られているというのが現状である。他コミュニティの学生と関わることのメリットを先輩から後輩へ伝え、連携を促進していく必要があると考える。

■ 教職員との連携について

毎月1回、「国際部ミーティング」として、支援部署である国際教育グループの職員とKUブリッジ幹部との話し合いの場を設けている。その際には国際交流の活性化やKUブリッジが国際教育グループに求めていること、国際教育グループがKUブリッジに求めることについて互いに伝えて意見交換をし、その結果、KUブリッジと国際教育グループの関係性がさらに密になるとともに、企画の立案や改善に繋がっている。今後も支援部署との連携の重要性を認識し、共に関西大学のグローバル化を促進していきたい。

■ 課題

2025年度の課題としては、特定のメンバーに負担が偏ってしまったこと、メンバー全員で集まって話し合う機会が少なかったことがあげられる。企画を進めていく際には、立案段階で広く意見を求めるとともに、準備の最初の段階において、全員でタスクとスケジュール感を共有し、全員が無理なく積極的に参加できる役割分担を考えたい。また、メンバー間の情報共有や新メンバーの育成をそれぞれが意識的に行える仕組みとして、新メンバー1人に既存メンバー1人がつき、書類の作成指導やサポート、進捗・状況管理を徹底する体制を構築したい。さらに、メンバー全員が「留学生や関大生に対して、KUブリッジとして何ができるか」をしっかりと考えて目標を持ち、メンバー間のコミュニケーションを密にして、意見を共有しやすい環境をつくるために、まずはKUブリッジ内でのコミュニケーションを促進するべく、定期的にコミュニティ内の交流イベントも企画し、一体感を高めたいと考えている。

pick up 事業

キャンパスツアー

春学期・秋学期



関西大学で学び始める交換留学生を対象に、新しい環境に早く馴染み、充実した学生生活を送れるよう支援することを目的として、2011年から継続して取り組んでいる。

KUブリッジの学生がガイド役となり、各学舎や図書館、ITセンター、凜風館などの学内施設を案内するとともに、図書館の学習スペースやITセンターのサポート体制、食堂など学生生活を支える施設・サービスを紹介した。留学生が新しい環境に早く馴染み、安心して充実した学生生活を送るきっかけとなる機会となった。



書道体験

～日本の伝統文化を体験しよう～



書道体験イベントは、留学生に日本の伝統文化である書道を体験してもらうことを目的に、2011年に初めて実施し、2025年までに過去4回開催してきたKUブリッジの交流企画である。今回は、過去に実施していた企画を復活させたいという学生の思いから、第5回目となる書道体験イベントを実施した。

事前に参加者へ書きたい日本語や名前の当て字を準備し、当日は書道経験のある学生が筆の持ち方や基本を説明した後、思い思いの文字を書いて日本文化を体験した。作品を見せ合う場面も見られ、留学生と学生が交流を深める機会となった。



参加者の声

・ I really liked that we could choose the kanji we wanted to paint, and the instructors were very kind and explained everything in a clear and helpful way.

(自分の書きたい漢字を選べたことが良かった。また、KUブリッジの方々がとても親切で、分かりやすく丁寧に教えてくれた。)

① カードゲーム大会！

留学生や新入生にとっては初めての関西大学での学生生活が始まる中で、カードゲームを通して、日本語に触れながら留学生と関西大学の学生との交流の機会を創出することを目的として実施した。

当日は、3グループに分かれて「ito」を行い、グループをローテーションすることで、参加者同士がより多くの人と交流できるよう工夫した。ゲームでは、日本語だけでなく英語も交えながらコミュニケーションを取り、国籍の異なる学生同士がお互いの価値観や考え方を知る機会となった。また、参加者同士で協力してゲームに取り組むことで自然と会話が生まれ、さまざまな参加者との交流を楽しみながら、親睦を深めることができた。



日 時 5月29日（木）16時30分～17時30分

場 所 千里山キャンパス凜風館1階ピアエリア

参加者数 16名（ピア・サポータ3名、研修生1名、留学生5名、一般学生7名）

参加者の声 ・ It was my first time playing that card game, and I really enjoyed it.
（そのカードゲームをするのは初めてでしたが、とても楽しめた。）（留学生）
・ いろんな人と知り合うことができて良かった。（一般学生）

② KU bridge tour in Umeda

留学生が日本人学生と交流できる機会を提供し、梅田で観光をしながら、日本の文化や生活を楽しみ、慣れてもらうことを目的として実施した。

当日、想定していたより参加者が少なかったが、全員で密にコミュニケーションを取り、グラングリーンに到着後は、昼食やデザートを食べるなど参加者全員で楽しむことができた。また、ツアー中の会話を通して、日本と海外、お互いの国の文化を知ることができた。



日 時 6月8日（日）10時30分～17時00分

場 所 グラングリーン、スカイビルの周辺

参加者数 18名（ピア・サポータ13名、研修生5名）

参加者の声 ・ Today was a great day! I was happy to meet new Japanese people, make new friends, and have the chance to interact in Japanese.
（今日はとても良い一日でした！新しい日本人の方々と出会い、新しい友達を作り、日本語で交流する機会を持てて嬉しかった。）（留学生）

③ 秋学期キャンパスツアー2025

秋学期から関西大学で学ぶ留学生を対象にキャンパスツアーを行うことで、関西大学への順応を促し、今後の充実した学生生活につなげる支援を目的として実施した。

当日は、KUブリッジの学生がガイド役となり、関西大学千里山キャンパスの各学舎をはじめ、図書館やITセンター、凜風館など、学生生活を支える学内施設を案内した。各施設では、大学生活をより充実させるために利用できるサービスについて紹介し、留学生が安心して大学生活を送るためのサポート体制について理解を深めてもらった。

キャンパスツアーを通して、交換留学生在が大学生活に必要な施設やサービスを知るだけでなく、KUブリッジの学生との交流を深めながら、新しい環境への不安を和らげ、今後の学生生活への期待を高める機会となった。



日 時 9月10日(水) 10時30分～12時40分

場 所 千里山キャンパス

参加者数 98名(ピア・サポータ3名、研修生1名、留学生94名)

④ 書道体験～日本の伝統文化を体験しよう～

留学生に一般学生と交流する機会を提供するとともに、書道を通して日本の伝統文化を体験してもらうことを目的として実施した。

事前に参加者へ書きたい日本語や漢字を聞き取るとともに、一人ひとりの名前に合わせた当て字を準備し、参加者が興味を持って取り組める内容とした。当日は、書道経験のある学生が筆の持ち方や基本的な書き方を説明した後、それぞれが思い思いの文字を書きながら日本文化に親しんだ。参加者同士が作品を見せ合い交流する様子も見られ、日本文化を楽しみながら、留学生と親睦を深める機会となった。



日 時 10月20日(月) 16時20分～17時50分

場 所 千里山キャンパス凜風館1階ピアエリア

参加者数 11名(ピア・サポータ4名、留学生5名、一般学生2名)

参加者の声

- ・ I really liked that we could choose the kanji we wanted to paint, and the instructors were very kind and explained everything in a clear and helpful way. (自分の描きたい漢字を選べたことが良かった。また、講師の方々がとても親切で、分かりやすく丁寧に教えてくれた。)(留学生)
- ・ I enjoyed learning how to write kanji by myself. (自分で漢字を書くことを学べて楽しかった。)(留学生)

⑤ KU bridge ツアーin嵐山

留学生が一般学生と交流する機会を提供し、京都嵐山で観光をしながら、日本の文化や観光地を楽しむことを目的として実施した。

当日は、関大前駅に集合し、参加者同士で食べたいものなどについて話しながら嵐山へ向かった。到着後は2グループに分かれ、食べ歩きを楽しみながら渡月橋や竹林、天竜寺などの日本でも人気の嵐山の観光スポットを巡った。また、日本だけでなく、参加してくれた留学生の母国の話や文化について話すなど、異文化交流を図ることができた。



日 時 11月30日（日）10時40分～16時20分

場 所 京都嵐山（渡月橋や竹林の小径周辺、天龍寺（希望者のみ））

参加者数 15名（ピア・サポータ5名、留学生5名、一般学生5名）

参加者の声 ・ It was my first time visiting Arashiyama in autumn, and the timing of the tour was perfect. The scenery was very beautiful, and I really enjoyed taking in the views at a relaxed pace. (秋に嵐山を訪れるのは初めてでしたが、ツアーの時間配分もちょうどよく、美しい景色をゆっくり楽しむことができた。) (留学生)
・ 留学生と交流してみたく参加しました。日本語以外で会話することができて良かった。(一般学生)

⑥ KU Bridge tour at the Christmas Market

秋学期が始まってしばらく経ち、大学生活に慣れてきたタイミングで、クリスマスマーケットを散策することで、留学生と一般学生の交流を深めることを目的として実施した。

当日は、天王寺公園のクリスマスツリーの前で記念撮影を行った後、2グループに分かれて散策した。てんしば内の店舗で各自が好きなものを購入し、フードコートで会話を楽しんだほか、慶沢園やあべのキューズモール、あべのMIOなどを訪れ、写真撮影を楽しむグループもあった。参加者同士が食事や散策を楽しみながら交流を深め、クリスマスの雰囲気を楽しみながら、留学生と一般学生が親睦を深める機会となった。



日 時 12月21日（日）11時05分～16時30分

場 所 天王寺公園

参加者数 18名（ピア・サポータ4名、研修生6名、留学生3名、一般学生5名）

参加者の声 ・ 国際交流に興味があったので参加した。いろいろと自由にまわることができて楽しかった。(一般学生)
・ 散策しながら気軽にいろんな人と話せる機会になったのが良かった。(一般学生)

⑦ 春学期キャンパスツアー2026

春学期から関西大学で学び始める交換留学生向けにキャンパスツアーを行うことで、新しい環境への順応を促し、今後の充実した学生生活につなげる支援を目的として実施した。

当日は、KUブリッジの学生がガイド役となり、千里山キャンパスの各学舎をはじめ、図書館やITセンター、凜風館など、学生生活を支える学内施設を案内した。また、国際部が実施する留学生向けオリエンテーションの一部の時間を利用し、日本語と英語を併記したスライドを使用しながら、英語でKUブリッジの活動について説明した。キャンパスツアーを通して、交換留学生が大学生活に必要な施設やサービスを知るだけでなく、KUブリッジの学生との交流を深めながら、新しい環境への不安を和らげ、今後の学生生活への期待を高める機会となった。



日 時 2026年3月25日（水）10時30分～13時40分

場 所 千里山キャンパス

参加者数 56名（ピア・サポータ4名、研修生4名、留学生48名）

3.3 KUサポートプランナー（KUSP）

■ ピア・コミュニティの趣旨

KUサポートプランナー（以下、「KUSP」という。）は、「素晴らしい活動をしているにも関わらず、発表する場所がない」、「多くの関西大学の学生と一緒に活動したい」、「授業以外の学びの機会を実現、提供したい」と思っている関西大学の学生の思いを形にするコミュニティである。学生のニーズに沿うようなイベントの発信を行う。

活動を通じて、学年や学部を超えた繋がりを広げ、対人関係能力や自己表現能力などの社会で生きる力を身につけることで、多くの学生がキャンパスライフをより良いものにすることをめざしている。

■ 所属人数

16名 ＊1年次生2名、2年次生6名、3年次生5名、4年次生3名

（2026年3月末現在）

■ ミーティングの概要

原則週1回

■ ピア・コミュニティ内の連携について

メンバー間の連絡や情報共有には、SNS（LINE）を活用して頻繁に行っている。一方で、対面の会議も大切にしており、学年にかかわらずフラットに話ができる雰囲気が構築できているため、わからないことがあればすぐにメンバーに相談できる体制が整っている。課題としては、授業等によりメンバー全員が揃って参加できる会議日の設定が難しいことである。会議出席者は議事録の作成を、欠席者は議事録の確認を徹底すること、顔を合わせた際にフォローを行うことで、しっかりと情報共有を行いながら、一体感のある活動を続けていきたい。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

代表者会議を通じて、各コミュニティの代表者・副代表者同士の横のつながりができている。また、KUSPには、他のコミュニティと兼部しているメンバーがいるため、それぞれのコミュニティの状況が情報として入ってきやすい環境でもあった。今後は、その利点を活かして、他のコミュニティとのコラボレーション企画なども考えていきたい。

■ 教職員との連携について

学生生活支援グループが支援部署である。特に企画実施前は、支援部署の担当職員との密なコミュニケーションがとれており、企画の運営方法についてもアドバイスをいただけたことで、広い視野で考えることや事前にリスクを減らす対策、より参加者の満足度を向上させる方法を練ることができた。また、企画当日の様子をフィードバックしてもらうなど、準備から反省に至るまで細やかに寄り添っていただいた。

■ 課題

昨年度に引き続き2グループ体制をとることで、同時期に2つの企画の準備を進め、実施できた。しかし、大企画を秋学期に集中させたことで、1つ1つの企画をメンバー全員で話し合って練り上げるという過程が不十分になってしまったようにも感じている。

次年度は開催時期を分散させ、メンバー全員で相談し、企画の質を高める時間も十分に確保しながら、参加者を集める広報手段や新メンバーの育成についてもメンバーでしっかりと話し合いながら、丁寧に活動を進めていきたい。

pick up 事業

パーソナルカラー& 骨格診断講座



関大生が自分に似合う雰囲気や形を見つけ、自身の魅力をより引き出せるようになるとともに、他者に好印象を与える服選びができるようになることを目的として実施した。さらに、自分に似合う色やスタイルを知ること、着こなしの幅を広げ、ファッションをより楽しめるようになることをめざした。

当日は、第一印象の重要性について説明した後、パーソナルカラー診断と骨格診断について学び、参加者同士でセルフ診断を行った。講師のアドバイスを受けながら理解を深め、参加者からは自身に似合うタイプを知ることができたとの声が寄せられた。アンケートでも高い満足度が得られ、学生のニーズに応える有意義な講座となった。



ふだんの暮らしから備える学生防災

～学んで備えて、つながる未来～



遠方から通う関大生や一人暮らしの関大生をターゲットに、災害が起きた場合への対応を知ってもらい、防災への意識を高めてもらうこと、また、実際に防災グッズに触れてもらうことで、その内容や使い方を理解してもらい、自身で災害に備える際のハードルを下げることを目的として実施した。

当日は、災害時のリスクや身の守り方、防災グッズ・防災レシピについて学ぶ座学を実施した。続くワークショップでは、防災グッズの体験や講師による実践を通して理解を深め、学生同士の交流も活発に行われた。身近な物を防災に活用できることを学び、防災を身近に考え、自ら備えようとする意識を高める有意義な機会となった。



参加者の声

・身近にある持ち物が防災グッズとして活用できることを知れて、防災に対しての意識が高められたので良かった。（2年次生）

・初めて見る防災グッズばかりで新鮮な体験ができた。災害が起こったときのことを考えるきっかけになった。（1年次生）

① みんなで楽しむ！モルック＆ドッチビー大会

モルックやドッチビーを通して身体を動かし、健康促進を図るとともに、参加者同士の交流の場を提供することを目的として実施した。

当日は、交流のきっかけ作りとして、モルックを投げる前に自己紹介を行ったり、ホワイトボードに記載されたお題をもとに会話を促したりすることで、参加者同士のコミュニケーションの活性化を図った。

その結果、活動を通して自然な会話が生まれ、学年や所属を越えた交流が見られるなど、参加者同士が親睦を深める機会となった。



日 時 5月14日（水）、21日（水）10時40分～12時50分

場 所 千里山キャンパス屋内練習場 / 凧風館1階ピアエリア

参加者数 11名（ピア・サポータ5名、研修生3名、一般学生3名）

参加者の声 ・アットホームな雰囲気ですごく楽しかった。（3年次生）
・ちょっと難しかったけれどすごく楽しかった。久々に体を動かしながら交流できて、いい経験になった。（3年次生）

② ボードゲームパーティー～ボードゲームを通じて友だちを作ろう～

誰でも気軽に楽しめるボードゲームを通して参加者同士の交流を深めることを目的として実施した。

当日は3種類の人生ゲームを用意し、3グループに分かれて活動を行った。ゲームが進むにつれて参加者同士の会話も活発になり、終盤には笑顔あふれる和やかな雰囲気の中で交流を深めることができた。

また、複数種類のゲームを用意したことで長時間参加する学生も飽きることなく楽しむことができ、別キャンパスの学生も交えながら、学部やキャンパスを超えた交流の場となった。



日 時 6月18日（水）14時40分～17時50分

場 所 千里山キャンパス凧風館1階ピアエリア

参加者数 22名（ピア・サポータ4名、研修生3名、一般学生15名）

参加者の声 ・他の学科の学生と交流ができて楽しかった。（1年次生）
・参加者全員で盛り上がるのができて楽しかった。（1年次生）

③ 自分をもっと好きになる！パーソナルカラー＆骨格診断講座

関大生が自分に似合う雰囲気や形を見つけて自身の魅力をより引き出せるようになるとともに、他者に好印象を与える「似合う服選び」ができるようになること、さらに、本講座を通して自分の似合う色やスタイルを知ることによって着たい服の幅を広げ、ファッションをより楽しめるようになることを目的として実施した。

当日は、第一印象の重要性についての説明の後、パーソナルカラー診断と骨格診断について学び、参加者同士でペアを組んでセルフ診断を行った。講師によるアドバイスや質疑応答も交えながら理解を深め、参加者からは自身に似合うカラーや骨格を知ることができたとの声が寄せられた。アンケートでは高い満足度が得られ、学生のニーズに応える有意義な講座となった。



日 時 12月8日(月) 16時20分～18時20分

場 所 千里山キャンパス総合図書館1階ワークショップエリア

講 師 ファッションスタイリスト 石川 真理子 氏

参加者数 24名(ピア・サポーター7名、研修生2名、一般学生15名)

参加者の声 ・骨格やパーソナルカラーについて詳しく教えていただき、今後の洋服選びの参考にしたいと思った。(4年次生)
・有益な情報をたくさん得ることができた。(1年次生)

④ ふだんの暮らしから備える学生防災～学んで備えて、つながる未来～

遠方から通う関大生や一人暮らしの関大生をターゲットに、災害が起きた場合への対応を知ってもらい、防災への意識を高めてもらうこと、また、実際に防災グッズに触れてもらうことで、その内容や使い方を理解してもらい、自身で災害に備える際のハードルを下げることを目的として実施した。

当日は、講師紹介と講座の目的説明の後、災害時のリスクや危険な場所、身の守り方、防災グッズや防災レシピについて学ぶ座学を実施した。続くワークショップでは、防災グッズの体験や講師による実践を通して理解を深めるとともに、学生同士の交流も活発に行われた。普段身近にある物を防災に活用できる視点は参加者にとって親しみやすく、防災を身近に考えるきっかけとなった。楽しみながら学ぶ中で、防災への関心を高め、自ら備えようとする意識づけにつながる有意義な機会となった。



日 時 12月15日(月) 16時20分～17時50分

場 所 千里山キャンパス総合図書館1階ワークショップエリア

講 師 NPO法人エコロジーオンライン 平田 賀彦 氏

参加者数 15名(ピア・サポーター7名、研修生5名、一般学生3名)

参加者の声 ・防災に対しての意識が高められたので良かった。(3年次生)
・初めて見る防災グッズばかりで新鮮な体験ができた。災害が起こったときのことを考えるきっかけになった。(1年次生)

3.4 KUコアラ

■ ピア・コミュニティの趣旨

KUコアラは、学生の図書館利用の促進をめざし、学生の視点から、ワークショップやビブリオバトルなどの企画を行うコミュニティである。また、図書館と連携した活動も行っている。

■ 所属人数

5名 ＊1年次生0名、2年次生3名、3年次生1名、4年次生1名

(2026年3月末現在)

■ ミーティングの概要

定例会議（企画の進行状況に合わせて週1回程度対面またはオンラインで開催）

■ ピア・コミュニティ内の連携について

定例会議時に各企画の進行状況や問題点を共有し、メンバー全員が現在進行中の企画の状況を理解できるように心がけている。また、各自で記録を残すだけでなく、Googleドライブを活用してコミュニティの中で蓄積された資料を参照できるようにしている。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

2025年度も引き続き、KUコアラにおいては人員不足の問題が深刻であった。

また、メンバーの呼びかけに対する他のメンバーのレスポンスに時間を要し、企画の準備が停滞するという状況も多く見受けられた。少人数での活動の利点として、意思決定が早さと情報共有のスムーズさがあげられるが、その利点を活かしきれず、連携不足であったことは課題として大きい。次年度はこの反省を踏まえ、少人数の利点であるスピード感を十分に活かしながら、少人数でも無理なく準備を進めていけるよう、タスクの洗い出しと担当決めを全員で行い、全員がスケジュール感を把握し、連携を強めながら準備を進めていく体制をつくりたい。

■ 教職員との連携について

支援部署である図書館事務室とは、昨年度に引き続きteamsを用いて、対面での相談とあわせて連携をとっている。活動の企画段階から随時相談や報告を行い、その都度アドバイスやサポートをいただいていた。次年度は図書館利用の推進につながるような企画を、図書館事務室と共同企画として実施したいと考えている。

■ 課題

2025年度は、KUコアラとしてこれまでに例をみない学外での企画を立案から実施まで形にできたことが、新たな取り組みとしての実績を積めたと感じている。一方で、その他の企画も含めて、事前準備や事後の振り返りが不十分であったことから、広報期間が短く、参加者が集まりにくかったこと、コミュニケーションの不足により、メンバー間での企画コンセプトの共有が不十分で、準備の負担に大きな偏りがあったことなど、課題も多くあった。これらの課題を解決・改善するためには、やはりメンバーの拡充とメンバー間のコミュニケーションの充実が必須である。次年度はInstagram等SNSを活用し、イベントの告知や報告にとどまらず、KUコアラの趣旨や活動内容等の定期的な投稿を通して、KUコアラの認知度向上、活動への関心を高めることにも力を入れていきたい。

pick up 事業

KUコアラ presents

総合図書館入門ツアー



新入生に総合図書館の利用方法や各種サービスを知ってもらうとともに、関西大学総合図書館の魅力や本に親しむ機会を提供することで、図書館の利用促進を図ることを目的として実施した。

当日は、1階から3階まで順路に沿って案内し、各フロアの設備や利用方法について説明を行った。参加者アンケートの有効回答は少なかったものの、図書館の利用経験が少ない学生にも参加してもらうことができ、図書館への理解を深める機会となった。

また、企画終了後にはKUコアラの活動に興味を持つ参加者もあり、図書館への関心を高めるとともに、KUコアラの認知度向上や今後の活動への関心につながる機会となった。



KUコアラの古本まつり



学内で本に触れる機会を増やすことで読書活動を促進し、本への興味・関心を高めるとともに、古本の交換を通して関大生同士の交流を図り、KUコアラの認知度向上につなげることを目的として実施した。本企画は2019年に初めて実施し、2024年度に再開して以降、2年連続で取り組んでいる企画である。



参加者とKUコアラメンバーが持ち寄った本を交換する形式で開催し、本を持参した参加者には交換を基本としつつ、本を持参していない学生も気軽に参加できるよう、自由に本を持ち帰ることができる運営とした。誰でも気軽に参加できる形式とすることで、本に触れるきっかけづくりや学生同士の交流を促進した。

持ち寄った本には、おすすめする理由や印象に残った場面などを記入したメッセージカードを添え、新たな持ち主へ本の魅力が伝わるよう工夫した。単に本を交換するだけでなく、本を介したメッセージのやり取りを通して、本との新たな出会いや学生同士のつながりが生まれる企画となった。

① KUコアラpresents 総合図書館入門ツアー

新入生に総合図書館の使い方を知ってもらう。また、本や図書館への親しみを持ってもらうことで図書館の利用促進を図ることを目的として実施した。

本企画は昼休みの30分間（12時20分～12時50分）を活用し、最大5回実施した。案内時には『図書館利用案内』やKUコアラの紹介資料を配付し、ツアー内で伝えきれない内容を補完できるよう工夫した。参加者を1階から3階まで順路に沿って案内し、各フロアで設備や利用方法について説明を行った。アンケートの有効回答は少なかったものの、図書館の利用経験が少ない学生にも参加してもらうことができ、図書館への理解を深めてもらう機会となった。また、企画終了後には一般学生からKUコアラガイダンスへの応募もあり、図書館だけでなく、KUコアラへの関心を高めるきっかけとなった。



日 時	4月14日（月）～4月18日（金）12時20分～12時50分
場 所	千里山キャンパス総合図書館
参加者数	13名（ピア・サポータ4名、研修生1名、一般学生8名）

② KUコアラの古本まつり

学内で本に触れる機会を増やすことで読書活動を促進し、興味を持ってもらう。また、古本の交換を通して関大生の交流を図ると同時に、KUコアラの知名度も向上させることを目的として実施した。

参加者とKUコアラメンバーが持ち寄った本を交換する形式で開催し、本の持ち込みの有無にかかわらず自由に持ち帰れるようにした。また、持ち寄った本にはおすすめポイントを記したメッセージカードを挟み込み、新たな持ち主との文面上の交流が生まれる工夫を行った。すべての日程で多くの学生が参加し、多くの学生が古本を持ち帰ったことから、読書活動の促進につながったと考えられる。さらに、会場内に設置したピア・コミュニティ紹介ミニブックを手にする参加者もあり、KUコアラの認知向上にもつながる企画となった。



日 時	6月23日（月）～6月27日（金）10時45分～12時45分
場 所	千里山キャンパス凜風館1階ピアエリア
参加者数	21名（ピア・サポータ3名、一般学生18名）

③ KUコアラと行く梅田の書店巡り

それぞれ特徴の異なる書店をめぐり、幅広く提供される読書体験に触れること、また、読書活動の促進、読書意欲の活性化を図ることを目的として実施した。

当日は梅田エリアの複数書店を巡り、各店舗の特徴や魅力を紹介しながら見学を行った。参加者には各書店で感じたことや気になった本を記録できるしおりを配付し、短時間でも違いや楽しみ方を実感できるよう工夫した。また、連絡手段としてLINEオープンチャットを活用し、円滑な運営を図った。企画を通して、参加者が新たな本や書店と出会う機会となったほか、移動中の交流も生まれ、読書活動の促進と学生同士の交流につながる企画となった。



日 時 7月6日(日) 10時00分～12時15分

場 所 紀伊国屋書店 梅田本店、TSUTAYA BOOKSTORE 梅田MeRISE、MARUZEN & ジュンク堂 梅田店、梅田蔦屋書店

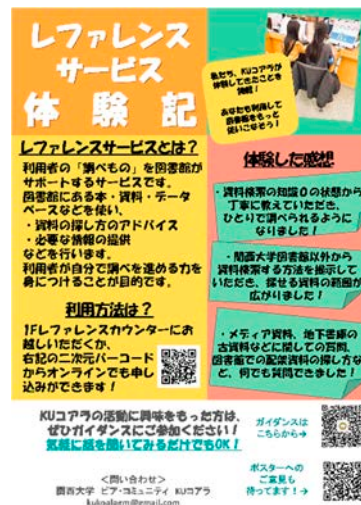
参加者数 6名(ピア・サポータ2名、研修生1名、一般学生3名)

参加者の声 ・自分の知らなかった本屋に行くことができて良かった。また、それぞれの本屋の特徴を言うてくださったのが特に良かった。(一般学生)

④ レファレンスカウンターの体験レポート・特大ポスター掲示

図書館内のサービスの1つであるレファレンスカウンターの使い方をより多くの利用者に知ってもらい、当該サービスの認知拡大および図書館の利用を促進させることを目的として実施した。

KUコアラメンバー2名が実際にレファレンスカウンターのサービスを経験し、その内容をレポートにまとめたうえで、写真やイラストを取り入れたポスターを作成し、総合図書館内や凧風館に掲示した。ポスターにはレファレンスカウンターの認知度や今後紹介してほしい図書館サービスについて伺うアンケート回答用の二次元コードを掲載したが、有効な回答は得られなかった。しかし、学生目線で図書館の魅力や利用できるサービスを発信する試みは有意義であるため、今後は発信方法を工夫しながら、より効果的な周知につなげていきたい。



日 時 11月21日(金)～2026年1月23日(金)

場 所 千里山キャンパス総合図書館

参加者数 4名(ピア・サポータ4名)

⑤ KUコアラ～冬のビブリオバトル～

学年・学部を問わず「読書」という共通の趣味を通し、参加者同士がコミュニケーションをとることで、参加者の視野を広げ、未知の本との出会いの場とすることを目的として実施した。

当日は発表者3名がそれぞれ紹介したい本を持ち寄り、その魅力やおすすめポイントを発表した。発表後には、最も読みたいと思った本を決める投票を行い、『ヤノマミ』と『ロビンソン・クルーソー』がチャンプ本に選ばれた。参加者同士で活発な意見交換が行われ、新たな本への関心を深める機会となった。アンケートでは、多くの参加者が新しいジャンルの本に挑戦したいと回答し、全員が今後も参加したいと答えるなど、読書を通じた交流と視野の拡大につながる有意義な企画となった。



日	時	12月16日（火）16時20分～17時45分
場	所	千里山キャンパス凜風館1階ピアエリア
参 加 者 数		5名（ピア・サポータ2名、一般学生3名）

3.5 2025年度活動していないコミュニティについて

ピア・スポーツコミュニティ（PSC）

■ ピア・コミュニティの趣旨

ピア・スポーツコミュニティ（PSC）は、関大生の「絆」となる“スポーツ”をキーワードにして、関西大学に関わるすべての人の輪を広げ、相互交流を促進することを目的とする。

特に体育会に所属する学生と所属していない学生の交流を通して、関西大学の学生としての帰属意識や母校愛を高め、人との繋がりを築くことができるようなサポート活動を行ってきた。

スポーツ振興グループが支援部署である。

KUサポーターズ

■ ピア・コミュニティの趣旨

KUサポーターズは、“仲間同士の助け合い”をキーワードに、学生による学生のための学生相談を実施してきた。大学生活における些細な悩みや問題について誰かに話を聞いてもらいたい時や、悩みがあるけれど誰に相談してよいかわからないという時に、学生相談室と連携してサポートを行うコミュニティである。また、過去には年に数回の講演会やワークショップなども開催していた。

学生生活支援グループが支援部署である。

ぴあかんず

■ ピア・コミュニティの趣旨

ぴあかんずは、ピア・サポート活動やそこに関わる学生の活躍を、SNS等のweb媒体を通して伝えていくことで、関西大学でのピア・サポート活動の認知度向上と促進をめざすコミュニティである。

ボランティア活動支援グループが支援部署である。

関西大学ITピア・コミュニティ “i.com”

■ ピア・コミュニティの趣旨

関西大学ITピア・コミュニティ “i.com” は、“Do IT！（ITしようぜ！）” をキャッチコピーに、ITスキル（主にパソコンを利用し、映像・Web・ポスターなどを作成する技術）を行使し、関西大学の学生に技術支援する活動を行う。具体的には、「Microsoft Office」や画像編集ソフト「GIMP」の使い方を教える講習会の開催や、ワンポイントアドバイスをまとめた小冊子を作成し、学内で配付する活動などを実施してきた。

情報推進グループが支援部署である。

関西大学学生PRチーム SUGaO

ボランティア活動支援グループが支援部署として支援していた上記コミュニティについては、継続的な機材使用や技術指導に係る協力の目途が立たないことから、2023年度以降活動を休止するとともに、新規メンバーの募集活動は行わないという方針が決まっている。

4 ピア・サポーターからのメッセージ

運営本部で学んだこと

ピア・コミュニティ運営本部 ^{やす だ かず み} 安田 一澄

私が運営本部に加入したきっかけは、中学や高校で学級委員や委員会活動に取り組んだ経験から、大学でも組織を支えるまじめな活動にしっかりと取り組みたいと考えたからです。同時に、将来に対する漠然とした不安を抱える中、自分自身が成長できる機会を求めている私にとって、学生同士が支援し合うピア・サポートの理念や、各コミュニティを繋ぐ運営本部の役割は非常に魅力的でした。

また、私は大学生活において、気になることには積極的に挑戦し、能動的に動くことを目標としてきました。加入してからの1年間は、その目標を意識して、自ら進んで活動に取り組みました。そして今年度は、これまで牽引してくださっていた先輩方が卒業や留学で不在となり、私たち2年次生が主体となって運営を担う1年となりました。春学期には新入生の大学生活のスタートを応援する活動、秋学期には交流イベントなどを企画・実施し、参加された学生の皆さんの笑顔を見ることができたときには大きなやりがいを感じました。

しかし、組織運営の裏側では多くの課題にも直面しました。メンバー全員が揃うミーティングの設定が難しく、情報共有をオンラインツールに頼る場面が多くなりました。皆でアイデアを出し合う時間が取れず、協力して作り上げるべき活動が、ただタスクをこなすだけの作業となってしまいました。その結果、率直に語り合える信頼関係が十分に築けず、一部のメンバーに負担が偏ってしまったことは、今年度の大きな反省点です。

このような壁にぶつかったことは、私にとって組織のあり方や人間関係を根本から見つめ直す機会となりました。私は過去の経験からコミュニケーションの大切さは当然分かっているつもりでしたが、それぞれが個別にタスクをこなすだけでは、チームの運営には限界があったのです。直接顔を合わせ、何気ない雑談を交わし、互いの思いを共有する。そうした日々の関わり合いがあって初めて、困難な状況でも支え合える連帯感が生まれるのだと、今回の失敗を通して改めて学び直すことができました。

思い通りにいかないこともありましたが、温かい仲間と共に試行錯誤した日々は、とても充実した時間でした。この1年で得た対話と信頼関係が組織の基盤を作るという学びは、将来社会に出てチームに関わる際にも必ず生きる財産になると確信しています。困難な状況下でもこの1年間活動が続けることができたのは、ひとえに多くの方々からの支えがあったのもであり、改めて感謝申し上げます。来年度へ向けては、こうした反省点をしっかりと活かしながら活動に取り組んでいきたいと思っています。

(法学部 2年次生)

一歩踏み出した先に広がった成長とつながり

KUブリッジ ^{なかむら}中村 ^{いなみ}いなみ

私は、大学生活では、「やりたいことは必ずやる、やり切る」という目標を持ち、少しでも興味を持ったことには積極的に挑戦し、活動の場を広げていきたいと考えていました。

その中で出会ったのがピア・コミュニティであり、ピア・サポート活動です。関西大学という学生数の多い大学で、より多くの人と交流する機会を増やしたいと考えたことが、加入の大きなきっかけでした。もともと英語には強い自信があったわけではありませんが、興味のあることに挑戦したいという思いから、活動に参加しました。

活動当初は、イベントの進行方法や留学生への対応が分からず、不安を感じることも多くありました。特にイベント時には、トラブルが起きないか、参加者が楽しめているか、時間通りに進行できているかなど、常に周囲に気を配る必要があり、責任の大きさを実感しました。しかし、そのたびに先輩や同級生が丁寧に教えてくださり、準備の進め方や当日の対応、声かけの工夫などを一つずつ学ぶことができました。周囲の支えの中で経験を重ねることで、次第に自信を持って活動に取り組めるようになりました。

ピア・サポート活動のやりがいは、自分たちが企画・運営したイベントを通して、参加者同士の交流が生まれる点にあります。最初は緊張していた留学生や新入生が、最後には笑顔で話していたり、「楽しかった」「また参加したい」と言ってくれたりする瞬間に、大きな達成感を得ました。また、相手の立場に立って考える力や、状況に応じて柔軟に対応する力、チームで協力して物事を進める力を身につけることができました。

現在では後輩に活動内容やイベント運営のポイントを教える立場となり、自分が経験してきたこの活動の楽しさややりがいを伝えたいという思いが強くなりました。自分が先輩から支えてもらったように、今度は自分が後輩を支える側として関わることで、活動の価値をより深く実感しています。また、後輩が主体的に行動し、自信をつけていく姿を見ることは、自分にとっても大きなやりがいとなっています。

ピア・サポート活動を通して、挑戦することの大切さや人と関わることの楽しさを学び、自分自身が成長できたと実感しています。イベントの成功だけでなく、準備や話し合いを重ねる過程も印象に残っており、仲間と協力して一つの企画を作り上げる経験は、大学生活の中でも特に貴重なものでした。今後もこの経験を活かし、積極的に行動し続け、周囲と協力しながらKUブリッジの活動にさらなる価値を生み出していきたいと考えています。

(社会学部 2年次生)

ピア・サポート活動を通じて得たもの

KUサポートプランナー（KUSP）^{たかはし みわ} 高橋 未和

私がピア・コミュニティに加入したのは、大学1年次生の終わり頃でした。進級を前に、新しいことに挑戦したいと考えていた時、メンバー募集のお知らせを目にしました。イベントの企画を通じて、学生の役に立つことができるKUSPの活動に興味を持ち、すぐに加入を決めました。気が付けば活動が続けて2年になります。最初は、先輩に教えてもらったことをこなす日々でしたが、支援部署による手厚いサポートのもと、職員の方々や、頼れる先輩とのコミュニケーションを通じて、主体的に動く力が自然と身に付いていきました。このように安心して活動できる環境が、自分にはとても合っていたと感じます。

KUSPの活動では、メンバー同士でアイデアを出し合い、これまでにさまざまなイベントを企画・運営してきました。協力して一つのイベントを作り上げることは、大変なこともありましたが、それ以上の達成感がありました。参加者が、1人でも「参加して良かった」と思えるイベントができていたら嬉しく思います。また、活動をする中で、ピア・サポートの本質に立ち返って考える大切さを、職員の方々から何度も教えていただいたように感じます。

特に印象に残っているのは、2024年の「ぴあのわ」に参加したことです。大阪開催の年ということで、この貴重な機会にも恵まれ、わくわくした気持ちで参加しました。ピア・サポートという共通理念を持ちながらも、活動の形態や内容は大学によってさまざまで、多くの学びを得ることができました。他大学との交流を通じて視野を広げ、自分たちの活動を相対化して考え直す良いきっかけにもなりました。

2025年は、「ぴあのわ」で得た他大学の実践や考え方を参考にしながら、関西大学らしいピア活動の企画・運営に挑戦しました。学んだことをそのまま取り入れるのではなく、自分たちの活動に合う形へと落とし込み、メンバーとともにより良い活動づくりを進めることができました。

さらに、ピア・コミュニティでの活動は、私がやりたかったことを実現する場にもなりました。合宿に参加したり、新歓で勧誘をしたりと、たくさんを経験させてもらいました。こんなにも充実した時間になることを、2年前は想像もしていませんでした。

中でも、KUSPの代表を務めたことは、これまでリーダー経験がなかった私にとって、大きな挑戦でした。最初はとても緊張して、何をするにも手探りの状況が続きました。しかし、メンバー全員で支え合いながら活動をするうちに、「一人一人がやりがいを持ち、楽しく活動できるようにサポートできる代表になりたい」という目標ができました。自分なりのリーダー像を掲げながら活動したことも、良い思い出です。

そして、ピア・サポート活動を通じ、他者のために行っていた活動が、結果的に自分自身の成長にも繋がっていたことに気付きました。ピア・コミュニティでの経験は、これからの人生において活かせるものばかりです。私が活動できる期間は残りわずかですが、KUSPとして今後も学生のためになる楽しいイベントを提供し続けられるよう、頑張りたいと思います。

（文学部3年次生）

私は1人じゃないということ

KUコアラ とうじょう 東條 み ゆ 心夢

私がKUコアラに加入したきっかけは、大学生活が始まり、何か新しいことに挑戦してみたいと強く思っていたことでした。そこで入学早々に出会ったのが『KUコアラ』です。

数少ない趣味であった「読書」を通して、貴重な経験を積むことができるだろうと、期待を胸に新生活を始めることができました。

KUコアラではたくさんのやりがいを感じてきました。1年次生のときは、先輩たちが立案してくださった企画のお手伝いをするという認識だったと記憶しています。KUコアラのメンバーとして、与えられた役割を全うする実感がありました。2年次生になると、立案から反省まで企画の全てを背負い、運営者としてより重大な責任を果たさなければなりません。『企画の完遂』という手強い敵が大きな壁として立ちはだかり、引退された非常に優秀な先輩方の功績を身に染みて感じました。もちろん、その分達成感もすごいのです。私が知らなかっただけで、たくさんの人たちが私たちに関わってくれていたことを、今、確かにこの目で見続けています。

ピア・サポート活動を通して得たものは、1つのプロジェクトを協力して作り上げるために、自分自信の責任と仲間への信頼を両立する力です。リーダーを任されてすぐは、身勝手な責任感を暴走させ、「私が全部やる！」と一人で背負いこんで苦しんでいました。メンバーと積極的なコミュニケーションがとれておらず、しばしば連携不足が露呈する。各メンバーの能力が本当に様々に異なっていることすら失念し、企画のコンセプトも十分に伝わっていない。反省点以上に、失敗したことのみに執着しすぎたために、何も思い通りにいかなかったのは、今思えば当然です。リーダー能力に乏しい私が、たった1人で考え込んでいても仕方がなかったのです。だからこそ、どこまで自分自身に責任を課し、そして、どのように仲間たちに信頼を託すのか、決断するしかないのです。KUコアラには素晴らしい仲間たちがいますから、もっと早くから頼れば良かったですね。彼らのもっとすごい力を引き出していけるよう、もっと彼らの声に耳を傾けていきます。そして何より、「まだ頑張れる」と思うことができたのは、何度も何度も親身になって支えてくれた支援部署の方々や、ボランティア活動支援グループの方々がいたからでした。KUコアラは『誰かに頼ること』を必死に教えてくれるとても頼もしい大人の皆さまにも囲まれてここまで来ることができました。

将来、KUコアラを継承してくれる人たちが、KUコアラでの時間の中にあたたかいものを得ることができるよう、私はもうしばらく走り続けたいと思います。

(文学部 2年次生)

5 支援部署職員からのメッセージ

ピア・コミュニティの再構築を担う存在として

ボランティア活動支援グループ 新谷 祐希

関西大学におけるピア・コミュニティは、「関大生の学生生活の質を向上させること」を目的に、学生が学生を支援するピア・サポート活動を実践している団体です。なかでも運営本部は、各コミュニティの活動を支え、連携を促進するとともに、その価値を学内に広め、「学生総ピア・サポータ体制」の実現をめざす中核的な存在です。

2025年度は、新入生を対象とした取り組みを中心に活動が展開されました。入学式での誘導や写真撮影補助を行う「ピアサポチャレンジ」や新入生歓迎企画を通して、新入生が安心して大学生活をスタートできる環境づくりに貢献するとともに、一般学生が“支える側”として関わる機会の創出にもつながっていました。これらの活動は、ピア・サポートの入り口を広げる重要な役割を果たしていたと感じています。

また、秋学期にはコミュニティ間の交流を促進する企画が実施されました。所属の枠を越えた交流の機会を設けることで、学生同士のつながりを生み出し、ピア・コミュニティ全体としての一体感を育む取り組みです。参加しやすい時間設定やグループ構成の工夫など、学生目線での場づくりが行われていた点が印象的でした。

一方で、運営本部の活動を通して、組織としての課題も明らかになりました。準備段階における動き出しの遅れや、メンバー間のコミュニケーション不足により、一部の学生に負担が偏る状況や、活動が「協働」ではなく「作業」として進んでしまう場面が見られました。こうした状況を何とか打開しようと、活動報告会に向けた振り返りでは、団体の課題について、学生一人ひとりが自身の経験をもとに反省点を整理し、それぞれの視点から考えを持ち寄りました。活動に対する認識や今後の方向性について十分に対話できていなかった部分も含めて、自分たちの活動を見つめ直そうとするその姿勢は、運営本部としての今後を考えるうえでの出発点であったように感じます。

ピア・サポート活動は、常に順調で、楽しいだけというわけではありません。しかし、戸惑いや失敗も含めて、活動における一つひとつの気づきの積み重ねが、変化する学生のニーズや活動環境に応じたピア・コミュニティ全体の再構築につながっていくものと考えています。今後も運営本部が中心となり、各コミュニティをつなぎ、支え合う関係性を育てていくことで、「学生総ピア・サポータ体制」という理念が、より実感を伴ったものとして広がっていくことを期待しています。

支援部署としても、学生一人ひとりの主体性を尊重しながら、その挑戦を支え、安心して試行錯誤できる環境づくりに努めるとともに、運営本部の活動が、ピア・コミュニティ全体の発展につながっていくよう、今後も温かく伴走してまいります。

以 上

学生による学生のための国際交流

国際教育グループ（受入留学生支援チーム） 森田 剛臣

KUブリッジは「外国人留学生と国内学生の架け橋」となることを目的として、2008年に発足し、国際交流イベント等を企画しているピア・コミュニティです。毎月1回をベースとして、さまざまなイベントを企画し、国際交流活動を行っています。

関西大学では、2,400名を超える外国人留学生が日々学んでいます。彼らの「国内学生と交流したい、友達になりたい」という希望と、国内学生の「外国人留学生と交流したい、友達になりたい」という希望。それぞれの思いをつなげる役割をKUブリッジは担っています。学生のニーズに対して、一番近くで、また学生ならではの方法で対応ができるのがKUブリッジの魅力だと感じています。学生生活でいろいろなことに気づき、新たな国際交流の取り組みを考え、企画を実施していくなかで、企画・構想・実行する力が醸成されていくほか、後輩への指導力、集団を動かすリーダーシップも身に付けることができ、担当としても、学生たちが活動のなかで互いに意見を交換しながら成長していることが見てとれました。

また、KUブリッジメンバー全体でのミーティング、企画実行の主要メンバーとの打ち合わせ、企画書・予算書作成、そして大学への相談・確認などを通じて、個人の考えをチームで一つにまとめ、形にしていくことの大変さ、そしてやりがいを学んでくれているのではないかと感じています。

2025年度は書道体験企画や嵐山散策企画の実施にも取り組み、事業計画書や予算書など事前の書類作成から、当日に参加者が安全に活動するための準備まで新たな企画にも多角的な視点をもってチャレンジしてくれました。特に、昨今はSNSを効果的に活用することで企画をスムーズに進めており、大学生活を終えて社会に出た際も活かすことができる能力の開発につながっていると感じています。

KUブリッジの活動では、学生が自ら考え計画し、その内容について職員とディスカッションをすることでその時々でのベストな方法を模索することが多いです。KUブリッジのメンバーが活動を通じて自身の発信力や企画管理能力を高めていることを感じられる点も、ピア・サポート活動の魅力のひとつです。

今後も、KUブリッジのメンバーが実現したいこと、活動を通して伝えたいことを自由に企画・提案してもらいながら、私もアドバイスを加えるなかで、より良いイベント企画、ピア・コミュニティ活動、そしてKUブリッジのメンバーそれぞれの成長を目指して、職員としてサポートしていく所存です。

以 上

ピア・サポート活動を通じた支援と気づき

学生生活支援グループ 荒木 康裕

ピア・コミュニティ「KUサポートプランナー（以下「KUSP」という。）」に関する業務を担当して、2年目を迎えました。職員としても2年目となる今年度は、昨年度にKUSPの活動やピア・サポートの意義を学んだ経験を踏まえ、学生の主体性を尊重しながら、安心して挑戦できる環境を整えることを大切にして支援に携わってきました。

KUSPは、関大生の団体および個人のアイデアを募集し、共同で立案から実施までをサポートするとともに、関大生のニーズに沿ったイベントの企画・運営を行うコミュニティです。また、学外講師による講座等を通して、授業では得ることのできない学びを提供し、学生のキャンパスライフの活性化をめざして活動しています。

今年度は、「学部・学年を問わず誰もが気軽に参加できる企画」と「授業では得られない学びを提供する大型企画」を軸に活動を行いました。モルック&ドッチビー大会や人生ゲームなどのボードゲーム企画では、学生同士が自然に交流する姿が見られ、KUSPが学生をつなぐ場として機能していることを実感しました。

企画運営にあたっては、学生の発想や判断を尊重しつつ、企画内容の整理や進行面での助言を行い、学生が見通しを持って準備を進められるよう支援しました。学生と協働する中で、想像以上に柔軟な発想や行動力を持っていることに気づかされ、支援する立場として「教える」のではなく「共に考える」姿勢の重要性を学びました。

大型企画として実施されたパーソナルカラー&骨格診断講座や防災講座では、外部講師との調整など難しさもありましたが、学生が主体的に取り組むことで、参加者満足度の高い企画が実現しました。一方で、集客や内容面での課題も明確となり、事後の振り返りを通して次につながる学びが整理されていました。

この1年間、KUSPメンバーはピア・サポート活動を通して、他者と協働する経験を重ね、「主体性」「計画力」「企画力」といった社会人基礎力を着実に身につけてきたものと考えています。その成長を間近で見守ることができたことは、職員としての私自身の成長にもつながりました。

ピア・コミュニティは、学生の自主自治活動とは異なり、教職員が学生とともに考え、大学のリソースを活用できるからこそ実現しうる存在です。今後も支援部署として、学生一人ひとりの挑戦に寄り添いながら、KUSPが関大生全体に良い影響をもたらすコミュニティとなるよう、温かく見守り、サポートしていきたいと思います。

以 上

学生の「やりたい！」を形に変える

図書館事務室 三好 早紀

昨年度よりピア・コミュニティ（KUコアラ）の担当となりました。そのため、昨年度に引き続き、学生が本当にやりたいことは何か、また前年度の踏襲によるマンネリ化したイベントが増えていないかを意識しながら学生の意見を聞き取り、新しい視点で企画を考えてもらうようにしました。

学生が主体的にアイデアを出し、実現に向けて動くことは、コミュニティ活動の大きな目的でもあります。今年度は、その取り組みの成果として「KUコアラと行く梅田の書店巡り」と「レファレンスカウンター体験レポート・特大ポスター」という企画を実施しました。

まず、「KUコアラと行く梅田の書店巡り」は、学外での企画を考え、学生が自ら選んだ複数の書店について、特徴やディスプレイの工夫、販売されている書籍の傾向などを事前に調査し、当日は参加者に解説しながら巡りました。普段はなかなか訪れる機会のない書店を歩きながら、学生同士で本や書店の魅力について語り合えたようです。また、この企画では、お気に入りの本が見つかった場合、図書館に所蔵がなければ購入希望を出してもらい、図書館の蔵書に反映させる仕組みも設けました。残念ながら今回学生からの購入希望はありませんでしたが、図書館と学生の距離を縮める試みとして意義のある取り組みだったと感じています。

次に、「レファレンスカウンター体験レポート・特大ポスター」では、学部生から寄せられた「図書館のレファレンスカウンターは敷居が高い」「何ができるのか分からない」という声に応える形で企画しました。学生が実際にレファレンスカウンターを利用し、その体験を分かりやすくまとめたレポートをポスター化し、館内の各所に掲示しました。学生目線での説明は親しみやすく、利用のハードルを下げる効果が期待できるのではと実感しています。体験した4年生から「もっと早くレファレンスのことを知りたかったと思える体験でした」という感想をいただき、企画の意義を改めて感じました。

こうした新しい企画に積極的に取り組む一方で、学生が「やりたいこと」と「実際にできること」の間で試行錯誤し、苦戦する様子も見られました。限られた時間や多忙な学生生活の中で、企画の立案から準備、実行までを担うことは決して容易ではありません。現在、少人数で運営していることも課題の一因です。企画は可能な限り学生自身の力で主体的に進めることが望ましいですが、同時に、支援部署として学生の挑戦を後押しする役割も重要だと考えています。今後は、学生の自主性を尊重しつつ、必要に応じて職員も企画に参加するなど、伴走型の支援の在り方を検討していきたいと考えています。

学生が安心して挑戦し、経験を積み重ねていくことができる環境づくりを目指し、引き続き支援に取り組んでまいります。

以 上

參考資料

学生支援プログラム「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」 に関する取扱内規

平成 23 年 4 月 1 日制定

1 趣旨

この内規は、平成 19 年度文部科学省による、新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムの採択を受けたプログラム「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」の取組継続を受け、その取り組みに対する支援方策等を講じるため、その運営等に必要な事項を定めるものとする。

2 目的

学生が求める学生支援を学生自らが実践することを目指した「学生総ピア・サポータ体制」の構築を図るとともに、ピア・サポート活動を通して社会人基礎力を十分身につけ、他者を思いやることのできる豊かな人間性をもった人材を養成することを目的とする。

3 学生支援連絡協議会

(1) 本プログラムを実施運営するにあたっての意思決定機関として、学生支援連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(2) 協議会は次に掲げる者をもって構成する。

- ア 学生センター所長
- イ 学生センター副所長 1 名
- ウ 専任教育職員のうちから学長が指名する者 若干名
- エ 学生サービス事務局長
- オ 学事局（授業支援担当）次長
- カ 入試事務局次長
- キ 学生サービス事務局次長
- ク 学長室（国際担当）次長
- ケ キャリアセンター事務局長
- コ 学術情報事務局（図書館担当）次長
- サ 学術情報事務局（IT 担当）次長
- シ 学生生活支援グループ長
- ス ボランティア活動支援グループ長
- セ ボランティア活動支援グループ事務担当者 若干名

(3) 第 2 号ア、イ及びエからスまでに規定する委員の任期は役職在任中とする。

(4) 第 2 号ウに規定する委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(5) 委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(6) 協議会は、必要に応じて、前号に規定する委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(7) 協議会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。

4 議長及び副議長

協議会の議長は、学生センター所長をもって充てる。副議長は議長の指名による。

5 設置

第 2 項の目的を達成するための組織として「学生支援室」をボランティア活動支援グループ内に置く。

6 運営スタッフ

学生支援室は次に掲げるスタッフにより運営する。

ア ボランティア活動支援グループ事務担当者 若干名

イ ティーチングアシスタント 若干名

7 事務

この内規の改廃及び学生支援室に関する事務は、ボランティア活動支援グループが行う。

附 則

この内規は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この内規（改正）は、平成 24 年 12 月 1 日から施行する。

附 則

この内規（改正）は、平成 26 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

1 この内規（改正）は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

2 この内規（改正）施行の際に第 3 項第 2 号ウにより選出される委員の任期は、同項第 4 号の規定にかかわらず平成 28 年 9 月 30 日までとする。

関西大学ピア・コミュニティ運営規約

平成21年4月1日
制定

第一章 総則

- 第1条（名称） 本会は、関西大学ピア・コミュニティと称し、関西大学に設置する。
- 第2条（目的） 本会は、本会加盟ピア・コミュニティ及び各ピア・コミュニティ会員のために、加盟ピア・コミュニティとの協和による成果と、加盟ピア・コミュニティの自由かつ民主的な活動を確保することを決意し、本会会員の総意に基づいて活動することを目的とする。
- 第3条（活動及び事業） 本会は、前条に掲げる目的を遂行するために必要な活動を行う。その際、過度に危険な企画、差別的企画及び一般社会の倫理に反する企画は行わないことを宣言する。
- 第4条（構成） 本会は、関西大学の学生であり、関西大学のピア・コミュニティに所属し、ピア・サポート活動への志向を常に持ち続け、本規約を遵守し、関西大学ピア・コミュニティの秩序を維持することに貢献し、本規約に定める義務を履行するものによって構成される。また、ピア・コミュニティに参加するものを「ピア・サポータ」と呼ぶ。
- 第5条（活動組織） 本会のもとで活動する組織は、年度初めに各ピア・コミュニティ名簿を関西大学学生センターに提出しなければならない。
- 第6条（運営） 本会は、関西大学の大学職員、教員と共に三位一体でピア・サポート活動の運営に当たる。また、必要に応じて関西大学の既存の課外活動団体と連携する。
- 第7条（入会） 本会への入会希望者は、各ピア・コミュニティを通じて関西大学学生センターへの研修生の登録手続きを行う。その後、「関西大学ピア・サポート研修」の受講修了をもって、ピア・サポータとしての入会を認め、関西大学学生センター所定の手続きを行わなければならない。
- 第8条（退会） 本会から退会を希望する者は、所属ピア・コミュニティの承認を得た後、関西大学学生センター所定の手続きをもって退会とする。
- 第9条（兼部） 本会にて兼部を希望する者は、所属ピア・コミュニティ及び兼部するピア・コミュニティの承認を得た後、関西大学学生センター所定の手続きをもって兼部を認める。
- 第10条（経費） 本会の各種活動に関わる経費は、関西大学学生センターからの助成によって負担される。

第二章 加盟団体

- 第11条（資格） ピア・コミュニティは次の事項を満たす自主活動を行うものでなければならない。
- 一、ピア・コミュニティとして明確な目的を持つ
 - 二、代表者を置く
 - 三、関西大学に籍を置く学生で構成されている
- 第12条（義務） ピア・コミュニティは以下の義務を負う。
- 一、関西大学ピア・コミュニティの所属団体として、積極的な活動を行う義務
 - 二、関西大学学生センターの定める時期に事業計画書、予算書、事業報告書、決算書を関西大学学生センターに提出する義務
 - 三、活動全般を関西大学学生センターに報告する義務
 - 四、本規約を遵守する義務
 - 五、代表者会議の議決に従う義務
- 第13条（権利） ピア・コミュニティは以下の権利を有する。
- 一、代表者会議における代表者の発言権及び議決権
 - 二、関西大学学生センターにより管理を委任された施設及び各種備品を利用する権利
 - 三、関西大学学生センターにより貸与された、各ピア・コミュニティの目的を遂行するための施設を管理する権利

第三章 代表者会議

- 第14条（代表者会議） 代表者会議は、各ピア・コミュニティの代表者1名及び副代表者1名で構成される、本会の決議機関であり、休止中のピア・コミュニティを除く各ピア・コミュニティの代表者1名及び副代表者1名の総数の過半数の出席をもって成立する。
- 第15条（会議運営） 代表者会議の招集、運営、議事録の作成は運営本部が行う。
- 第16条（決議事項） 代表者会議において決議する事項は以下のものとする。
- 一、本規約が制定する事項
 - 二、運営本部長及び各ピア・コミュニティ代表者が必要と認める事項
- 第17条（議決権） 各ピア・コミュニティに対して1つの議決権を有する。
- 第18条（議決） 議決は本規約に規定がある場合を除き、議決権の過半数の賛成で可決することができる。また、代表者会議における議決方法は、挙手による議決もしくは署名による議決によって行う。

- 第 19 条（代理と委任） 代表者会議において、各ピア・コミュニティは代理人による出席または運営本部への委任を行うことができる。
- 一、各ピア・コミュニティの代表者または副代表が出席できない場合は、代理人を認める。ただし、その際は運営本部に対し、事前に代理人をたてる旨を伝えなければならない。
- 二、各ピア・コミュニティの代表者は議決権を運営本部に委任することができる。
- 第 20 条（議長と副議長） 代表者会議の議長は運営本部長、副議長は運営本部副部長が行う。
- 第 21 条（招集） 代表者会議は基本的に定例制とするが、以下の場合も招集する。
- 一、代表者の要請がある場合
- 二、運営本部役員のいずれかからの要請がある場合
- 第 22 条（議事録の公開） 代表者は運営本部に対し、議事録の公開を要求することができる。また、運営本部は議事の内容を公開する義務を負う。

第四章 加盟、休止及び廃止

- 第 23 条（加盟） 関西大学ピア・コミュニティへの加盟を求める団体は、運営本部に活動概要の報告を行い、代表者会議の決議及び関西大学学生センターの承認を得なければならない。
- 第 24 条（休止） 各ピア・コミュニティにおいて、人数減少等の理由によって活動の著しい停滞または停止という事態に陥っていると認められる場合、代表者会議の決議及び関西大学学生センターの承認を得ることで休止扱いとすることができる。
- なお、休止中のコミュニティの取り扱いに関しては、代表者会議の裁量に委ねる。
- 第 25 条（復帰） 休止中のピア・コミュニティが復帰を希望する場合、代表者会議の決議及び関西大学学生センターの承認を得ることで復帰することができる。
- なお、復帰に際しては、代表者会議において報告義務を負う。
- 第 26 条（廃止） 第 24 条に規定する措置を受けて4年を越えて正常な活動が行われていない場合は、代表者会議の決議及び関西大学学生センターの承認を得ることで当該団体を廃止することができる。

第五章 処分

第 27 条（処分）

ピア・コミュニティにおいて以下の場合に該当する場合、運営本部は代表者会議の決議をもって関西大学学生センターに処分の申し立てを行うことができる。これは、各ピア・コミュニティと個人両方に適用する。

- 一、関西大学ピア・コミュニティの名誉を著しく毀損した場合
- 二、関西大学ピア・コミュニティ全体の秩序を著しく乱した場合
- 三、本規約に明記している義務を著しく守らない場合
- 四、活動報告において虚偽の報告が明らかな場合
- 五、その他著しく関西大学ピア・コミュニティの活動を阻害した場合

第六章 改正

第 28 条（改正）

本規約の改正は、運営本部が必要と認めた場合もしくは加盟ピア・コミュニティによる改正動議がなされた場合、代表者会議の決議及び関西大学学生センターの承認を得ることで改正することができる。

附 則

この規約は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規約（改正）は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規約（改正）は、2023 年 4 月 1 日から施行する。

2025 年度 学生支援連絡協議会構成員

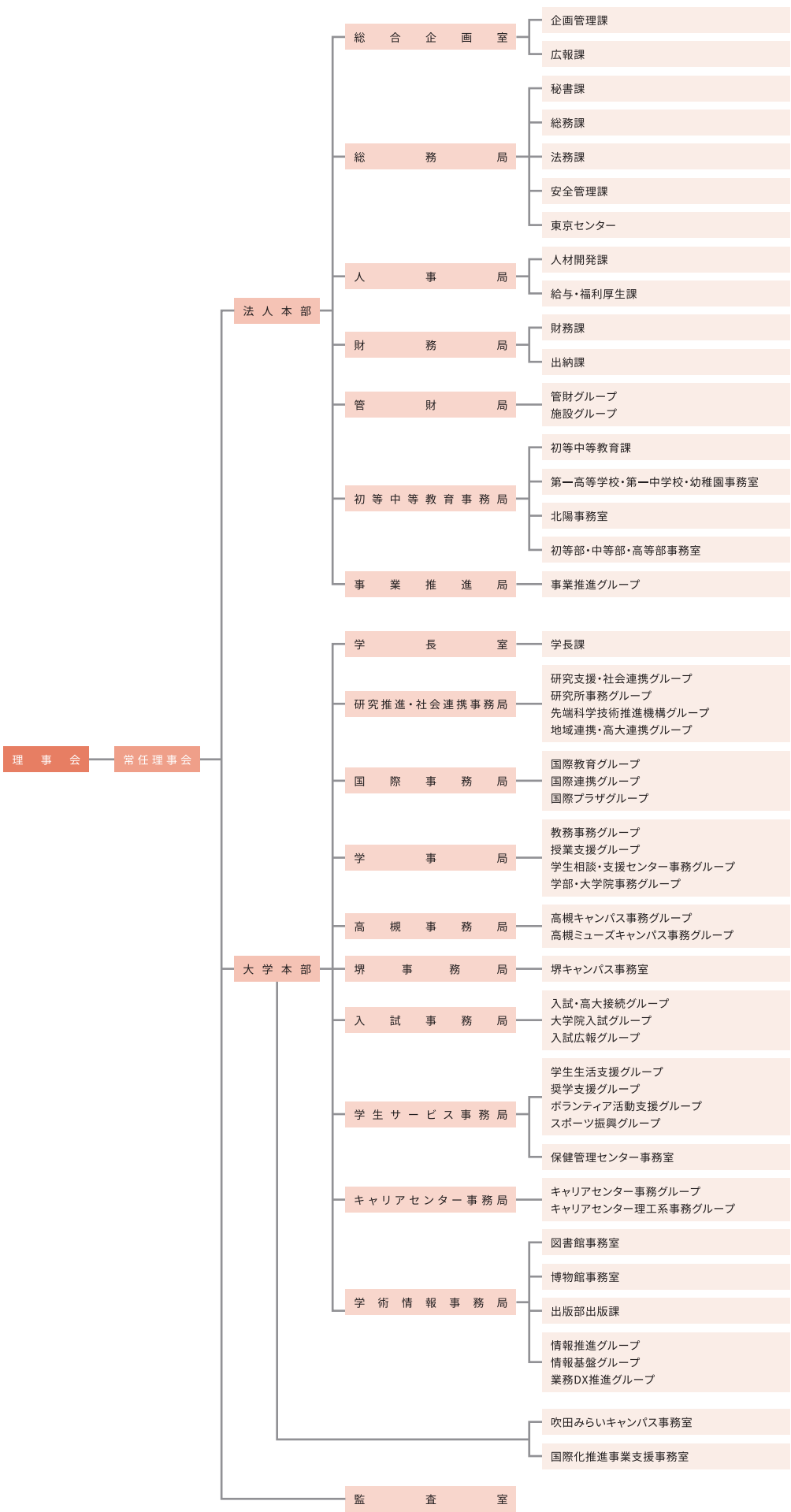
(2025年4月1日現在)

役職・所属	氏 名	任 期	備 考
学生センター所長	石井 光	役職在任中	第3項第2号アに定める
学生センター副所長	谷本 奈穂	役職在任中	第3項第2号イに定める
文学部准教授	村上 祐介	2024.10.1～ 2027.6 ※	第3項第2号ウに定める
学生サービス事務局長	奈須 秀治	役職在任中	第3項第2号エに定める
学事局（授業支援担当）次長	木元 隆文	役職在任中	第3項第2号オに定める
入試事務局次長	相馬 基伸	役職在任中	第3項第2号カに定める
学生サービス事務局次長	依藤 康正	役職在任中	第3項第2号キに定める
国際事務局次長	東條 正範	役職在任中	第3項第2号クに定める
キャリアセンター事務局次長	伊藤 邦典	役職在任中	第3項第2号ケに定める
学術情報事務局（図書館担当）次長	濱生 快彦	役職在任中	第3項第2号コに定める
学術情報事務局（IT担当）次長	中村 憲定	役職在任中	第3項第2号サに定める
学生生活支援グループ長	石田 義嗣	役職在任中	第3項第2号シに定める
ボランティア活動支援グループ長	宗田 喜美子	役職在任中	第3項第2号スに定める
ボランティア活動支援グループ事務担当者	新谷 祐希		第3項第2号セに定める

※ 2027年4月1日以後最初に招集される定時評議員会（2025年4月1日施行の改正私立学校法の定めによるもの）の終結の日までとする。

2025年度事務組織図

(2025年4月1日現在)



関西大学ピア・コミュニティ 2025 年度活動報告書

発 行 : 2026 年 8 月

発行者 : 関西大学

編集者 : 関西大学学生センター ボランティア活動支援グループ

住 所 : 〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

電 話 : 06-6368-1229

U R L : <http://www.kansai-u.ac.jp/gakusei/gp/>

印 刷 : 大都印刷株式会社